

二〇一九年
同志社大学入学式会場

The Bulletin of the Faculty of Global Communications

Cosmos



同志社大学グローバル・コミュニケーション学部機関誌
No.9

2020年3月

cosmos ['kɒzmos]

—①よく秩序づけられた宇宙。思考体系。

②キク科の観葉植物。

……花言葉 「調和」

cosmo- ['kɒzməʊ]

—（接頭語） 世界や宇宙に関する。

私は一つの可能性です。

私たちは無限の可能性です。

限り無く広がる世界の中で

調和をもたらす存在に成らんことを願い

これを題名とします。

References

Oxford Dictionaries. (<http://oxforddictionaries.com/definition/cosmos>)

流 希 望 海 個 自 会

忙

界 実

道 進

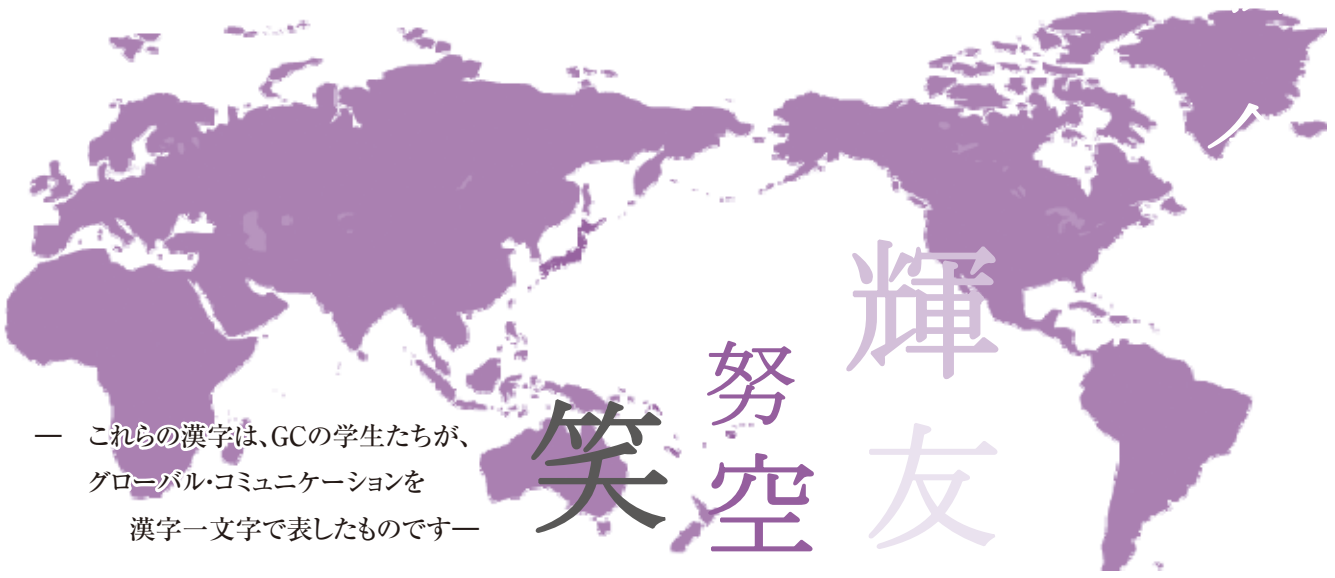
動 漢

未

樂 波

創山 創山 Cosmos

No.9



笑 努 空

輝 友

— これらの漢字は、GCの学生たちが、
グローバル・コミュニケーションを
漢字一文字で表したものです—

はじめに

この度はグローバル・コミュニケーション学部発行の学部機関誌 *Cosmos* 第9号を手にとっていただき、誠にありがとうございます。*Cosmos* は、本学部の特徴である「学生主体」で学部創設以来、毎年発行されており、多くの方々への本学部での学びや活動と学部内の情報発信を目的としています。今回は、より多くの方々にこの冊子を取ってもらえるよう、表紙から言葉の一言一句細部まで工夫を凝らし、今までよりも読みやすい内容に仕上げしております。

本学部は、英語、中国語、留学生が対象の日本語の3つのコースを備え、変容し続ける国際社会の舞台で facilitator（推進・纏め）、negotiator（交渉）、administrator（管理・運営）として活躍できる人材の育成が目標です。この冊子を手にとっていただいた方々には、我々がこの目標に向けて取り組んでいる内容を、ぜひ知っていただければと思います。

今回、我々は *Cosmos* 第9号を編集するにあたって、「創す（くずす）」というテーマを掲げました。今までの常識を「崩す」、新たなものを「創る」。これらの2語を組み合わせた「創す（くずす）」としました。理由は、変化の激しい国際社会の中で活躍できる人材を目指すものとして、変化を追い続けるのではなく、自分たちから積極的に常識を崩し、創っていくことが上記のような世界を牽引する人材に一番必要であると感じたからです。新島襄が鎖国という常識を崩し、アメリカで修行を積んだのちに同志社を創ったように、我々も今までの常識を疑い、新たなものを創ろうと努力しました。

このような挑戦も、周りの方々の支えがあったからこそ実現しました。メンバーはじめ、留学中で時差のある中、インタビューに応じてくれた後輩たち、就職活動と学業の両立で精一杯の中協力してくれた同期、忙しい中で合間を縫って取材に応じていただいた先輩とOBOGの方々。右も左もわからぬ僕たちに手を差し伸べて支援して下さった先生と職員の方々。そして、本誌を手にとってくださっているの方々。本誌に関わって下さった皆さまに心より感謝いたします。ありがとうございました。

それでは、最後までお楽しみください。

編集委員長（英語コース3年生） 玖村 拡活

表紙デザイン 太田 開成
内表紙デザイン 谷口 綾・堺 遼哉・竹本 名歩・鋤柄 裕大

Cosmos 第9号

目次

GC について	4
留学体験談	10
・留学後の活動	21
ゼミ紹介	24
Seminar Project 特集	32
コラム	
・特別対談	40
・OBOG インタビュー	44
・Fountain Commons インタビュー	50
・みんなの「GCE あるある」紹介掲示板!!	52
2019年度卒業研究テーマ	54
同志社大学グローバル・コミュニケーション学会 講演会・ワークショップ開催記録	61

GCについて

今年の *Cosmos* の映えある一番目のトピックは「Global Communication 学部 (GC 学部) について」です。GC 学部には英語コース (GCE)、中国語コース (GCC)、日本語コース (GCJ) と3つのコースがあります。その各コースの優秀な1年生にバトンを託し、生活スタイルや授業、課題に対する本音などについて語っていただきました。GC 学部入学後のイメージが湧き、少しでも興味を持っていただけると幸いです。では Let's have a look!

英語コース

山口 真穂

英語コースは1学年約90名で小規模なため、アットホームで和気あいあいとした雰囲気です。1年生では2年生の留学に向けて、実践的な英語力や異文化理解力を身につけます。10から15人ほどの少人数クラスが多いため、本当に仲良くなれます。全コースで履修するクラスもあり、他コースと交流ができて友達も作れます。また、GCE 生のみみんなが同じタイミングで留学するので、高いモチベーションを保ちながら学習できるのも良いところだと思います。

1年生春学期の時間割

	月	火	水	木	金
1	Communicative Performance	Preparation for TOEFL			Communicative skills in Chinese
2		☆生命の科学	Progress in Reading	Introduction to English-speaking Cultures	
3		Communicative skills in Chinese	☆建学の精神とキリスト教		Communicative Performance
4	Introduction to Global Communication			Progress in Writing	Threshold Seminar (留学準備)
5			Communicative skills in Chinese		

☆全学共通教養教育科目 (一般教養) その他必修科目

◎授業紹介

● お気に入りの授業は？

私は第2外国語の中国語の授業 (Communicative skills in Chinese) が好きでした。15人ほどの少人数で一から教えてもらえるので、初心者でもついていけます。私は発音がとても苦手でしたが、上手な友達によく教えてもらっていました。少しずつですが上達を感じると嬉しかったです。



● 難しかった授業は？

Introduction to English-speaking Cultures です。英語で英語圏の歴史や文化、文学などを学びました。専門的な事柄を英語で学ぶことの難しさを実感しました。

● 課題がきつい授業は？

Progress in Reading の授業は学生が自分で資料を作り授業をします。私のクラスは前の週に次の週の担当を決めていました。そのため、一週間で担当授業の準備をするのが本当に大変でしたが、学生の主導で行うのでとてもやりがいのある授業だと思います。



Q&A コーナー

Q. 空きコマの使い方は？

A. 大学の周りは何も無いので、基本的に大学内で過ごしています。自習室で課題を終わらせたり、友達と話したりしています。たまにキャンパス内にあるカフェに行ってスイーツを食べることもあります。

Q. 第二外国語は何がいいの？

A. 英語コースでは中国語、フランス語、ドイツ語の中から選ぶことができます。週に3回授業があり、ネイティブの先生の授業も受けられるので、やる気次第で上達できます。どの言語にもそれぞれの楽しさや難しさがあるので、自分が興味のある言語を選ぶのが一番だと思います。

Q. 先輩とも仲良くなれるの？

A. 履修相談会や留学相談会などで先輩と関わる機会は多く、GC 学部専用の自習室でも頻繁に顔を合わせるのので、仲良くなれるチャンスはたくさんあります。優しくて面白い個性豊かな先輩たちばかりです。

Q. 通学って大変？

A. 私は通学に2時間ほどかかるので、授業が1限にある日は早起きが大変です。通学時間に授業の予習などをして時間を有効活用するようにしていますが、寝てしまうことが多いです。大学生活に慣れていない入学当初は、本当にしんどかったです。



GCE を目指す後輩へメッセージ！

GCE では勉強も遊びも全力な仲間ばかりで、メリハリのある大学生活が送れます。大学は、自分次第で可能性が無限に広がる場所です。GCE で最高の仲間と一緒に素敵な大学生活を送りませんか？英語や留学に興味がある人はぜひぜひ GCE に来てください！

私たちのコースは1学年40人の少人数コースです。ここからさらに10人から20人のクラスに分かれて授業を受けます。ほぼ全員が初めて中国語を勉強するので、心配しなくても大丈夫です。1クラスの人数が少ない分、先生に対して質問もしやすく、中国語を使って会話をする機会が多くなります。また、みんなと顔見知りになれるので仲良くなれます。中国語コースの学生は、休み時間は騒いで、授業になると真剣に先生の話聞いて頑張っています。授業ではネイティブの先生から中国語の発音の仕方や文法を学ぶだけではなく、豆知識も教えてもらうことができるので、楽しく中国語が勉強できます。

1年生春学期の時間割

	月	火	水	木	金
1	英語 コミュニケーション	基幹中国語 リスニング	基幹中国語会話	/	
2	基幹中国語会話	☆生命の科学	基礎演習	/	
3	基幹中国語 ライティング	☆経済学	☆建学の精神と キリスト教	/	基幹中国語講読
4	Introduction to Global Communication	基幹中国語講読		/	英語リーディング
5				/	英語リーディング (上級)

☆は全学共通教養教育科目（一般教養）

◎おすすめの授業紹介

● 基幹中国語 会話

この授業は全員が、4クラスに分かれて10人という少人数で行われるのが特徴です。

他の授業には無いペアワークがあるので、実践的に会話の練習ができます。何よりも、先生との距離が近いのですぐ質問ができます。最初は思うように中国語が話せなくても、1週間に2回あるこの授業で少しずつ話せるようになっていきます。クラス内で助け合いながら、楽しんで中国語を習得できます！

● 基幹中国語 リスニング

この授業は2クラスに分かれて、週に1回行います。CDの音声を聞いて教科書の問題を解く授業の進め方です。中国語は書く・話すよりも聴いて理解することは難しいのですが、予習・復習を重ねれば、聴き取れるようになります。私たちの学年では、ほぼ全員の学生がこの授業が一番辛いと言っていました。それでも、小テストを毎週受けるうちに聴く力が身につけてきたと実感できるようになります。辛い分、上達したときの嬉しさは大きいんだと思うことができる授業です。

でもやっぱり、初めての中国語って不安。 そこで中国語初心者のAさんに聞いてみた！

Q. このコースをどうして選んだの？

A. 今まで英語を勉強してきたけど、大学で新しい言語を始めようと思ったからです。そして中国語を仕事で使えるレベルまで上達させて、日・英・中のトリリンガルになれると思ったからです。



Q. 中国語の勉強で一番辛いことは？

A. 入学してから夏休みに入るまでの、リスニングの授業が一番辛かったです。特に予習が大変でした。でも、どんどん慣れてきて今ではすごく楽になりました。

Q. 逆に一番楽しいことは？

A. 中国語コースは40人の少人数なので、みんなと仲良くなれるのがいいです！勉強や課題が大変な時も集まって協力できるので、それが一番の魅力です。



GCCを目指す後輩へメッセージ！

大学生になったら、もちろん授業はありますが、結構自由に過ごせるので本当に楽しいです。時間割も自分で決めて、勉強する時間や友達と遊ぶ時間を自分で考えて行動することが多くなったと思います。私は一人暮らしをしているので、特にこのことを実感します。中国語コースに入って、自分が今まで勉強してみたかった中国語に触れることができ嬉しい反面、やはり辛さもあります。でも同じコースの学生と一緒に勉強したり、お互いに質問できる環境なので、きっと大丈夫だなって確信しています。だから、少しでも中国語や中国に興味のある子は、ぜひ中国語コースに来てほしいです！待ってます！

GC 学部の日本語コースは外国人留学生を対象としていて、1年生には34人が在籍しています。授業は10人程で分かれて行われています。みんなが仲良くなれるアットホームな雰囲気の特徴です。今まで生きてきた環境、価値観が違う学生たちが集まっているため、授業中にはいつも多様で個性の強い意見で溢れています。単純に言語を学ぶだけではなく、多様性から発生するお互いの違いを認め、葛藤を調整しようとする過程を通じて、コミュニケーション能力を育てることができます。また、英語コース、中国語コースの日本人学生との交流も活発に行われており、日本社会で活躍できるグローバルな人材として役に立つ勉強をするために最も適したところだと思います。

1年生春学期の時間割

	月	火	水	木	金
1	英語コミュニケーション	☆哲学		クリティカルリーディング	
2			プレゼンテーション	アカデミックライティング	
3	☆宗教学		☆建学の精神とキリスト教	☆科学史・科学論	
4	Introduction to Global Communication	ファーストイヤーセミナー			英語リーディング

☆全学共通教養教育科目（一般教養）

◎授業紹介

課題が辛かった科目

英語リーディングは、中国語コースの学生たちと一緒に受ける授業の中で、毎週英語の文章を日本語に翻訳しなければならない宿題がありました。ある程度日本語ができと思っていたのですが、英語の願書のような固い感じの文章を、他の外国語である日本語に翻訳することがとても大変でした。このような課題が負担と感じる場合は、日本語により慣れてきた2年生の時にこの授業を受けたり、英語コミュニケーション、英語コミュニケーション上級で単位を取ったりすることをお勧めします。



多々羅キャンパスの寮生活

日本人学生がスポーツを楽しむ場所として使われている多々羅キャンパスの中に、外国人留学生の寮があります。多々羅キャンパスの中に位置するフィリップスホールが寮で、元は宿泊施設として使われていたので、きれいで便利な施設です。また、事務室が管理もしてくれるのでとてもきれいです。寮では共同キッチンを使っていて、学生が集まって料理パーティーをすることもあり、出会いの機会が増えます。施設や生活面では最高ですが、短所を挙げるならば周辺にスーパーやコンビニが無く、寮までの交通が不便なところ です。最初の契約期間は1年で（正規学生の場合）、居住期間については毎年11月頃同志社大学の留学生課から連絡がきます。おそらく、交通の問題のために1年以上住んでいる学生はあまり多くないと思います。

休日の過ごし方

外国人留学生は、日本でボランティア、通訳など多様な活動しながら休日を過ごしています。どのような活動をしているのか関心がある方は、GC学部のホームページ内の「GC 研究所 LABO」にて、毎月活動報告書を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。GC学部の学生は全員留学の経験があるので、自分が体験してきた活動と比較してみたり、留学に行く予定の学生であれば、参考資料としてみるのも面白いと思います。



GCJを目指す後輩へメッセージ！

留学生に「日本留学のきっかけは何ですか？」と聞いたら「日本の文化が好きだから、興味があるから」などの答えが多いと思います。しかし、最近は日本での就職までをも見据えて、日本に留学する学生も増えていると思います。GCJでの学びは、みなさんが卒業後も日本社会で活躍できる力を伸ばすうえで役に立つと思います。大学は「社会生活のスタート」だと言われますが、そのスタートを海外で一人でやり抜くのは予想以上に難しいことです。しかし、日本で留学をしようと思った時のチャレンジ精神を持ち続けて生きていくと、さらに成長している自分を見つけることができると思います。

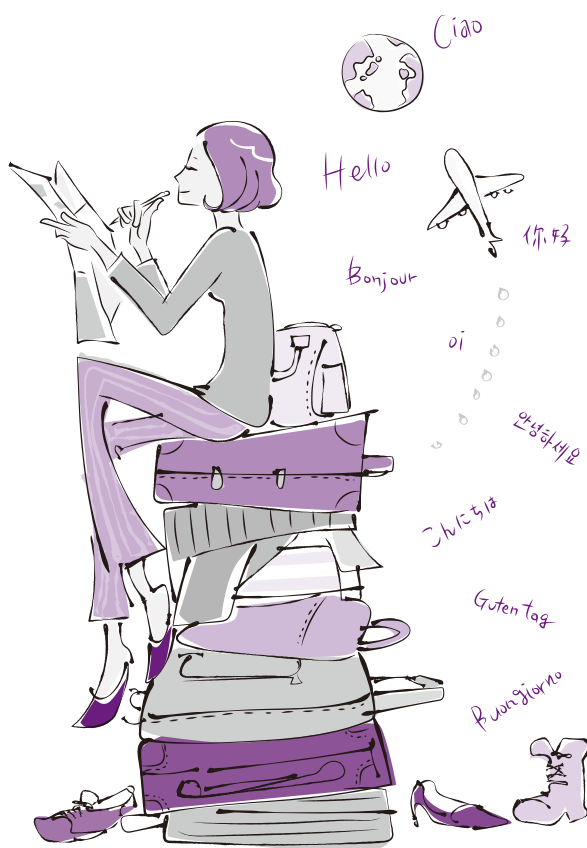
ぜひ同志社で会いましょう！！

「留学中にグローバル・コミュニケーション学部生は何を肌で感じ、考えているの？」

留学中の GC 学部生（グローバル・コミュニケーション学部生）に 気になる質問をしてみました！！

グローバル・コミュニケーション学部の英語・中国語コースの学生は、約1年間留学生生活を体験します。日本語コースの学生は、4年間 GC 学部に在籍し留学生生活を体験します。

このコーナーでは、留学に少しでも興味を持っている高校生の方々や、また留学を数か月後に控えている GC 学部の2年生にとって、留学生活の疑問や不安に関連する事柄について、留学中の GC 学部生から貴重なアドバイスをいただきました。OBOGの方々にも、ご自身の留学体験に想いを巡らせて楽しんでいただければ幸いです。





一番手前にいるのが高谷さんです。
ご友人と大学構内で撮影されたものです。

1. 後輩へのアドバイスを兼ねて、現地の生活に関して留学前の知っ得情報があれば教えてください。(例、現地の語学学校や大学生活など)

語学学校の授業は、4技能を鍛える授業で、合計週25時間授業があります。数回、即興でのスピーキング能力を測るテストがあるため、日頃からクラスで積極的に発言するように心がけ、他の国からの留学生との交流時に会話をして慣れていくと良いと思います。宿題はあまり多くありません。そのため、自由な時間をジムや体育館（無料で使用可能）での運動や語学学校の放課後イベントへの参加、または自分が興味のあるトピックの自習などに充てられます。大学

の正課授業登録に関して、現地大学のシステムにより履修できる科目の数にかなり制限がありますが、現地コーディネーターと交渉により、履修可能な科目もあります。せっかくの機会なので、自分が関心のある授業を見つけたら、諦める前に一度意思表示をして相談してみましょう。

2. 今、留学生活で熱中していることはありますか。あるいは、留学生活で印象に残った衝撃的またはおもしろエピソードがあれば教えてください。(例、交友関係やホームステイ先などでの体験)

幸いにも自由な時間が多く、その時間を活用して健康維持のためジムに通うか、現地の人とバスケットボールをしています。日本のサブカルチャーに詳しい中国からの留学生や、部分的に日本語を知っている友達から彼らのホームタウンについて教えてもらう機会があり、新しい発見がある異文化コミュニケーションを楽しんでいます。ホストマザーが誕生日の時は、親戚も呼んで大きなパーティが開かれます。ホストファミリーはカナダ以外の国のルーツをもっているため、親戚を含むパーティの際には、彼らが英語以外の言語で話すことや、その国の文化の特有の祝い方（Happy Birthdayの歌の後に独自の締め言葉が追加される習慣があることなど）を知ることができました。多文化主義の国であるカナダの一面を実際に感じる事ができました。Brock大学付近の町では、小鹿やスカunk、うさぎなどが時々現れるため、自然豊かな一面も感じられます。

3. あなたの思う留学先の魅力やイチ押しなポイントがあれば教えてください。(旅行する際に知っておきたいイベントやおすすめスポットなど)

ナイアガラの滝がバスで1時間程の距離にあり、また時期によっては学生証でバスが無料で利用できます。アメリカのニューヨーク州に日帰りでも入ることができるので、一日にカナダ・アメリカの両側から滝を眺めることが可能です。Canada Day や Victoria Day といった祝日の期間は、滝と一緒に花火も見ることができます。ダウントウンでは、日本食の食べ放題、中国料理の食べ放題、韓国、タイ、メキシコ料理など様々な国の料理が楽しめます。ショッピングや観光をしたい時に訪れるべき大都市トロントに近い立地（1時間半程度で行くことができる距離）でありながら、街自体は田舎であるため、都会・田舎の両方が楽しめます。またトロントからニューヨーク、オタワ、モントリオールへはバスで比較的安く旅行できます。



左側から3番目でボーダーの服を着ている女性が菅野さんで、自宅でホストファミリーと映っています。

1. 後輩へのアドバイスを兼ねて、現地の生活に関して留学前の知っ得情報があれば教えてください。(例、現地の語学学校や大学生活など)

Deakin 大学ではアカデミックに進む前に20週間語学学校に通います。授業で、大学でのエッセイの書き方やリファレンスの探し方、プレゼンテーションなど全て重要なスキルを学びます。クラスは15人前後の少人数で編成されており、国籍は中国人が少し多いですが、インターナショナルなクラスです。また、語学学校は豊富な英語教材を提供している点も魅力的です。リーディングやライティング、リスニングだけでなく、伸ばしたい英語スキルを重点的に勉強

できる文法やIELTS、洋画、DVD、マガジン、多読本などを借りることができ、好きな教材で好きな時に自学自習ができます。大学では、オーストラリア特有の移民の歴史やアート、ジェンダーなど人気のある授業からも、3科目か4科目選択できます。1科目につきクラスとセミナーが1回ずつ開講され、クラスは大教室でのレクチャー形式、セミナーは少人数のディスカッション形式で行われます。一緒に授業を受ける現地の学生の英語についていくのは少し難しいですが、積極的に英語を活用することが大切だと日々実感します。大学では予習が肝になると思います。事前にその週の授業やセミナーのテーマを読み、要点を理解する必要があります。そのため、留学前からアカデミック内容のリーディングとスキミングに慣れておくことをお勧めします。

2. 今、留学生活で熱中していることはありますか。あるいは、留学生活で印象に残った衝撃的またはおもしろエピソードがあれば教えてください。(例、交友関係やホームステイ先などでの体験)

ある日の夜、ホストマザーとリビングで映画を観ていた時、突然大きないびきが聞こえてきました。リビングには飼っている大型犬が寝ていたので、いびきを立てているのはその犬だろうと思いました。すると、ホストマザーが「このいびきはポッサムがかいているのよ。きっと庭のどこかの木の上で寝ているのね。」と教えてくれました。ポッサムとは、オーストラリアに生息している野生動物です。窓を閉めているにも関わらず、部屋の中まで聞こえてくる程、大きないびきをかき動物が庭にいると知り、驚きました。彼女もポッサムのいびきで、寝付けない時もあるそうです(笑)。また、オーストラリアでは家族の時間や休暇を大切にすることがあります。土曜日の夜は家族で映画鑑賞をしたり、誕生日には有給休暇を取るなど、ワークライフバランスが実現していることにも衝撃を受けました。

3. あなたの思う留学先の魅力やイチ押しなポイントがあれば教えてください。(旅行する際に知っておきたいイベントやおすすめスポットなど)

メルボルンは世界で一番住みやすいと評判で、実際に都会と自然が融合した素敵な街です。大学から1時間ほどの距離にあるシティでは多国籍料理が楽しめ、インスタ映えするようなウォールアートやおしゃれなカフェであふれています。私は旅行で4月にシドニーに行きました。ゴールドコーストも人気です。フェリーから眺めたオペラハウスとハーバーブリッジが印象に残っています。都市から離れると、ブルーマウンテンやボンダイビーチの大自然も楽しめます。



5月にサンフランシスコのゴールデンブリッジにて

1. 後輩へのアドバイスを兼ねて、現地の生活に関して留学前の知っ得情報があれば教えてください。(例、現地の語学学校や大学生活など)

授業選びは慎重にした方が良いです。授業名だけで選んで履修することを決めた授業が、実際には予想していた内容とは違うことがあります。事前に授業内容を理解し、教授や授業の評価、評判を調べて確認した方が良いです。授業開始から1から2週間は自由に授業変更可能です。第1回目の授業は、教授が授業の概要説明をするため、必ず出席することをお勧めします。大学の授業についていけないのか心配な方も、す

ぐに慣れるので心配無用です。分からないことがあれば、教授に聞けば教えてくれます。留学生だということを伝えて、主張することも良いと思います。友達に関しては、大学の授業だけでは作りにくいので、部活動やイベントをしっかりと調べてから色々と参加してみることが大切です。また、留学生向けオリエンテーション用の授業は、友達作りのために絶対取るべきだと思います。自由な時間は何か趣味などを見つけ、時間を無駄にしないように心がけてみてください。有意義な留学生活を送るには、行動的になることが大事です！

2. 今、留学生活で熱中していることはありますか。あるいは、留学生活で印象に残った衝撃的またはおもしろエピソードがあれば教えてください。(例、交友関係やホームステイ先などでの体験)

私は留学してすぐに韓国人の彼氏ができました。最初は英語に困ることなく仲良くしていました。韓国人の男性は「彼女が一番」という感じでとても優しく、大切にしてくれます。しかし、文化の違いでお互いの恋愛に関する態度が違い、喧嘩しました。お互いの細かな考えが英語では伝わりにくく、言いたいことが言えずスッキリしません。誰かに相談する時も、相手に違った形で伝わり、それがまた他の人へと伝わってしまうということがあり、大きな喧嘩もしました。仲のいい友達、彼氏を作ることは英語の上達につながり、より楽しい留学生活を送れます。しかしながら、真剣な話をする時は、使う英語の意味を考え、上手く伝わっているかどうか慎重に確認することが大切です。私も彼と喧嘩をする度に話し合い、文化の違いを理解し合い、乗り越えています。他の国の人と関わる時は、お互いの十分な理解が必要だと感じました。

3. あなたの思う留学先の魅力やイチ押しなポイントがあれば教えてください。(旅行する際に知っておきたいイベントやおすすめスポットなど)

大学の魅力は、自然豊かかつダウンタウンにあり、きれいなところですよ。ダウンタウンには多くの飲食店があり、様々な国の料理を楽しむことができます。また、近くにはサクラメントというデイビスより大きな町があり、多くの美術館やショッピングモール、レストランがあります。少し離れた所には Lake Tahoe という湖もあり、キャンプやカヤック、冬にはスキーもできます。スキー場は、11月初旬から7月中旬頃まで開いていて、長期間楽しむことができます。移動手段として、大学内は学生証があればバスを無料で使うことができ、また交通機関を利用すると、簡単にサンフランシスコまで行くことができます。デイビスは小さな町ですが、他の場所へのアクセスが良く便利です。普段は勉強しやすい環境で勉強し、休みの日に色々な所へ出かけることができるので、留学するにはピッタリの場所です。



写真中央に映るのが栗田君で友人のサウジアラビア人の Ahmad さんとパキスタン人の Muneeb さんと大学の教室にて

1. 後輩へのアドバイスを兼ねて、現地の生活に関して留学前の知っ得情報があれば教えてください。(例、現地の語学学校や大学生活など)

Guelph 大学は非常に大きく、スポーツ施設も充実しています。25ドル/2か月の安さで、設備の良いジムが使えます。Guelph 大学の学生であれば無料で、バドミントン、バスケットボール、サッカー、卓球、水泳、バレーボールなど幅広く楽しめます。スポーツを通して友達を作ることもできるので、スポーツ用の服を持っていくことをお勧めします。大学内のカフェテリアはハンバーガー、ピザ、中国料理、スターバックス、ティムホートンズなどがありますが、安いとは言えません。現地の語学学校の授業は、レベルは高く、Guelph 大学のアカデミックの講義に向けての授業が行われます。語学学校でガッツリ勉強したいという人には最適な大学です。一方で、遊ぶ時間も確保できます。他にも、現地で SIM カードを買う予定がない人は、日本で電話番号を持っている間に SMS 認証が必要なアプリの登録は済ませておきましょう。また、留学前に Airbnb¹(エアビーアンドビー) や Uber²(ウーバー) のシステム、長所や注意点などを調べてみてはいかがでしょうか。

¹ Airbnb は宿泊施設・民宿を提供している企業 ² Uber は自動車配車ウェブサイトおよび配車アプリ

2. 今、留学生活で熱中していることはありますか。あるいは、留学生活で印象に残った衝撃的またはおもしろエピソードがあれば教えてください。(例、交友関係やホームステイ先などでの体験)

語学学校では、面白いクラスメイトに恵まれました。2歳年下のコロンビア人の友達が、日本の先輩後輩の文化を知ってから「You're Senpai. You have to Ogore me」(「あなたは先輩なのだから、私にご飯をおごってよ。」)といつも迫ってきていましたが、今ではすっかり可愛い後輩です。パナマ人には僕の苗字で爆笑されたこともありました。というのも、僕の苗字の栗田(くりた)は、スペイン語のバンドエイドという意味の「Curita」(クウリッター)に似ているという理由で「君の苗字はバンドエイドだね。」と笑っていました。パナマ人は本当に小さなことに幸せを見つけられる幸せな人たちだと思います。彼らはスペイン語で話すと喜んでくれるので、仲良くなるにはその国の言葉で、挨拶やスラングを使って話しかけてみるのも良いと思います。しかし、彼らに文化の違いを感じさせられた出来事もありました。それはグループエッセイで、彼らと一緒にチームになった時に起こりました。彼らは約束していたミーティングの時間から、1時間も平気で遅れてきたのです。僕もさすがに怒りそうになったのですが、文化の違いによるものだと自分に言い聞かせました。留学生活では、暇な時間は趣味としてジムに行くか、スポーツをしています。スポーツを通して、新たな出会いもありました。サッカーをしている時、大学生の二人がサッカーをしていて、偶然一緒にサッカーをして友達になることができました。語学学校に通っている時期には、現地の大学生と交流する機会はほぼ無いので、貴重な機会でした。

3. あなたの思う留学先の魅力やイチ押しなポイントがあれば教えてください。(旅行する際に知っておきたいイベントやおすすめスポットなど)

ゲルフはそれほど都会とは言えませんが、大学の近くにモールがあり、様々な店も点々とあるので買い物には困りません。自然も楽しめ、なおかつ田舎すぎない点が長所です。スポーツ好きの僕には、ジム施設に行くことができるところがやはり魅力です。ボウリング場や映画館などもあります。日本食の店も数か所あるので、寿司や唐揚げなども色々食べられます。日本で食べる日本食の質を求めない限りは満足できます。バスを利用して、トロントへは2時間程度で着きます。トロントまで行くことができれば、何でもできます。さらに、ニューヨークからも近く、バスだけでニューヨークへ行くこともできます。留学先で自然の多い田舎か、便利な都会か選択を迷っているなら、Guelph 大学をお勧めします。



1. 後輩へのアドバイスを兼ねて、現地の生活に関して留学前の知っ得情報があれば教えてください。(例、現地の語学学校や大学生活など)

知っ得情報は、イギリス口語では、ありがとうが“cheers”、やばいが“sick!”と表現されることです。現地の学生たちと話す時に便利かもしれません。また、バスの定期は特定の区間で同じ料金に設定されているため、学校と家が近距離でも遠距離でもバスの値段は同じです。ちなみに、閉店時間はびっくりするくらい早いです。一般的に、どのお店も6時くらいには閉まるので要注意です。その後も開店しているのは、パブくらいです。次に、個人的に驚いたのがポケットティッシュの質です。紙のテーブルナプキンのような素材で、鼻の穴に詰めにくい感じです。次に、マイ箸をつねに持参することをお勧めします。スーパーなどではフォークやスプーンをくれません。私達もお箸やフォークがなくて何度も泣きました。また夏が意外と寒いので、秋冬の服を多めに準備することを推奨します。

2. 今、留学生活で熱中していることはありますか。あるいは、留学生活で印象に残った衝撃的またはおもしろエピソードがあれば教えてください。(例、交友関係やホームステイ先などでの体験)

夜のビーチで熱中することが今の楽しみです。家で歌うと、建物の壁が薄くもろいため、家中に普通に響いてしまいます(笑)。夜に皆で飲み物を持って、歌いながらビーチ沿いを歩いています。他の人達に変な目で見られるかもしれませんが、良いリフレッシュになります。また、ブライトンに来てからスケートボードを始めてみました。今は忙しい時期なので、時間がある時に友達に教えてもらおうかと思っています。衝撃的なエピソードは、ホストファミリーといつも夜ご飯を食べるのですが、その日はカレーで、ホストファミリーがカレーをナイフとフォークで食べていたことです。ちなみに、ラーメンもフォークで食べます。また、イギリス人かどうかも見分けられます。見分け方は簡単で、寒い日にTシャツ短パンの人の多くはイギリス生まれです。

3. あなたの思う留学先の魅力やイチ押しなポイントがあれば教えてください。(旅行する際に知っておきたいイベントやおすすめスポットなど)

ブライトンに来て、良かったことは人が優しいところです。譲り合いや、ぶつかってなくても“Sorry.”という人達があります。またヨーロッパが近いのもポイントです。オーストリアとエストニアは景色が可愛くて、個人的にお勧めです。特にエストニアの料理はほったがずり落ちました。また、ロンドンもそれほど遠くないので週末に気軽に出かけたりできます。ブライトンは、街の可愛さ、店の多さ(カフェ、古着屋、パブ)、イベントの多さがイチ押しポイントです。ブライトンでの生活は、まさにエンドレスパーティです。



帽子をかぶっていない左側の女性が染矢さんで、クイーンズタウンのワカティブ湖が背後にあります。

と積極的ではない場合が多いです。やはり、自分から積極的に話しかけることが何よりも大切です。外食は日本よりも少し高くなりますが、様々な国の美味しい料理が食べられます。カフェも多く素敵な街ですが、特にショッピングをするようなところは少ないです。お店に売っている安い服は、期待に添えないかも知れません。ファッションにこだわりがある方は、日本から持参することを強くお勧めします。ホームステイは、予想以上に当たり外れの差が大きく、今年は外れの確率の方が高かったように感じます。

1. 後輩へのアドバイスを兼ねて、現地の生活に関して留学前の知っ得情報があれば教えてください。(例、現地の語学学校や大学生活など)

他のプログラムなどで来ている日本人は少なく、色々な国から来ている留学生が多いです。そのため、英語を勉強するには最適な環境です。大学内では一人で行動している人が意外と多く、図書館やラウンジは毎日勉強している人であふれています。私の経験としては、こちらが受け身で話しかけられるのを待っていると、なかなか友達できません。というのも、日本人より外国人のほうがフレンドリーな人が多い想像を抱く人もいかもしれませんが、意外

2. 今、留学生活で熱中していることはありますか。あるいは、留学生活で印象に残った衝撃的またはおもしろエピソードがあれば教えてください。(例、交友関係やホームステイ先などでの体験)

熱中というわけではないですが、留学中にスケートボードとビリヤードに目覚めました。長期休みではない限り遊ぶ場所が少なく、暇になると今まで体験してこなかったことに目覚めるかも知れません。そして、時間があると自主的に勉強もできるので、今までより勉強時間が格段に増え、私の場合は日本では取り組まなかった政治の勉強にかなり興味が湧いています。現時点での衝撃的なエピソードは、私のホストブラザーがトイレを流してくれないことです。また、ホストシスターは彼氏の前でもかなり大きな音でげっぷをすることがあります。他のニュージーランドの友達も、ごく普通に人前で大きな音のげっぷをすることがあります。印象に残っているのは、日本人の友達はミャンマー人にモテモテだったことです。もう一つ印象に残った出来事があります。それは友達に誘われ、イベントに参加した時のことです。最初は彼らに「ただのパーティーだよ」と言われていたのですが、実際はキリスト教の教えについて学ぶ場だったのです。日本ではこのような経験をしたことが無かったため、戸惑ってしまいました。

3. あなたの思う留学先の魅力やイチ押しなポイントがあれば教えてください。(旅行する際に知っておきたいイベントやおすすめスポットなど)

お勧めの旅行先は、南島のクイーンズタウンとテカポ湖です。クイーンズタウンに行くなら、絶対にスノーボードはするべきだと思います。また、テカポ湖周辺で見ることができる星空は、プラネタリウムにいるような感じで、辺り一面が星でいっぱいです。そして、ニュージーランドの絶景を写真に収めるには、高性能なカメラが必需品だと思います。VUWのイチ押しポイントは、大学側のサポートが手厚く、教授も真摯に質問に答えてくれることです。また、規模はそれぞれですが、探せば色々なイベントを開催しているはずなので、興味があれば「とりあえず行ってみる精神」が大切だと思います。ニュージーランドを選んで良かったと思える点は、色々な国の人が多く、自由な時間が多いことです。自由な時間が増えたおかげで、自分を見直す時間が豊富にあるので、新しいことを見つけ、自分で考えて行動することができます。勉強にも集中しやすい環境なので、大学では勉強して、街に出かけたら遊ぶというようなメリハリのある生活を自然と過ごすことができるのも魅力です。



原田さんは左側の黒い服を着ている女性です。
士林夜市（しりんよいち）にて

留学前に想像していたことと実際のギャップはありましたか？

基本的に台湾の夏は暑く、雨が多く、想像以上に蒸し暑かったです。意外と、冬もコートが必要なくらいに寒くなります。暖房が無い分、部屋の中は日本より寒いと感じました。ですが、一方で1月でもまれに25度まで気温が上昇する日もあり、服装に困りました。治安は良い方ですが、台湾の交通マナーは良いとは言えません。冷や汗をかくような出来事もありました。他には、日本の接客は丁寧だと改めて感じました。同時に、台湾の方々の優しさにも触れました。何度も店員さんや街の人が優しく話しかけてくれる機会があり、私のつたない中国語を褒めて

くださる方、好意的に日本語で話してくださる方、「台湾に来てくれてありがとう」と温かい言葉をかけてくださる方にも出会って、本当に嬉しかったです。

現地の生活で一番苦労したことや楽しかったことは何ですか？また、苦労したことをどのように乗り越えましたか？

一番辛かったのは、自分の弱さと向き合うことです。留学中365日、つねに中国語学習に対してやる気に満ちあふれていたわけではありません。苦手な発音を指摘され落ち込み、会話や討論で意見を上手に表現出来ず、悩んだ時期もありました。自分が記録していた中国語の文章を現状と比較することで、成長を実感できました。また、この習慣を通して焦らず前向きに学習を続けられました。中国語学習を継続することだけが、悩みを解決できる方法だと自覚していたからです。弱点を改善する方法を模索し、少しずつ成長していく過程が私には必要不可欠でした。辛い時は、クラスメイトの仲間達の存在が、楽しい台湾での留学生活を支えてくれました。授業中は仲間が発した何気ない一言に笑い、休み時間はお互いの国の言語を一生懸命練習していました。放課後には皆で外食に出かけ、試行錯誤を重ねながら発表の課題に共に取り組みました。今でも、印象的なのは「週末快樂！（良い週末を）」と言う時の皆の笑顔です。いつの間にか当たり前になった彼らと過ごす毎日こそ、私の大切な思い出です。国籍も年齢も全てが違う仲間達と中国語を学ぶという目的を通じ、彼らに巡り合えたことが私の誇りです。

食生活について教えてください。

小籠包などの定番料理から、夜市のB級グルメやタピオカに至るまで「台湾美食」を堪能しました。現地の先生にずっと臭豆腐を勧められていたのですが、留学生活が一年経っても最後まで「臭い食べ物」という印象は変えられませんでした（笑）。日本食が恋しくなっても、日本食のチェーン店があったのでその点は大丈夫でした。ただ、食事は外食で済ませる習慣に最初は慣れず、辛いと感じていた頃もありました。

寮生活について教えてください。

他人との共同生活では、お互いに意思を伝え寛容になれば、適切な距離感を見つけられます。特に窮屈な思いはしませんでした。寮生活では勉強が辛い時は、机に向かう友人の姿が、私を鼓舞してくれました。また、共同生活を送るメリットとして、「ルームメイトがいれば、苦手なことも一緒に対処できる」と楽観的に考えられるようになりました。

中国語コース 復旦大学（中国） 長谷川 真子



1 列目のボーダーのTシャツを着ているのが長谷川さんです。大学の友達と復旦大学の教室にて撮影されたものです。

留学前に想像していたことと実際のギャップはありましたか？

私は中国に対してあまり良いイメージを持たないまま、留学に行きました。環境や人など、不安な部分はたくさんありました。しかし、実際に行ってみると環境に関して大きな問題もなく過ごしやすいです。また、中国人の人達はとても優しく、私達の拙い中国語でも一生懸命理解しようと試み、会話してくれました。困った時に助けてくれる方、話しかけてきてくれる方もいて、行く前よりも非常に好印象になりました。

現地の生活で一番苦労したことや楽しかったことは何ですか？また、苦労したことをどのように乗り越えましたか？

一番苦労したことは、現地ででの生活に慣れることです。何も分からないまま、留学生活が始まってしまったからです。色々な場所へ出かけて、学部の友達と積極的に情報交換などを行いました。また、クラスメイトが全員海外の人だったこともあり、彼らとの交流はとても貴重な経験となりました。授業後に一緒に遊びに出かけたこともあります。クラス会も開いてくれて、有意義な時間を過ごすことができました。

食生活について教えてください。

食べ物については、人それぞれ感想は違うと思いますが、私の場合は特に問題ありませんでした。一方、留学が始まって、1か月くらいの間はお腹を壊してしまう友人も数人いたのも事実です。中国で外食する時の良い点は、日本の食べ物より比較的全て格安で、量も多く本当に美味しいところです。

寮生活について教えてください。

寮は学校の外にあったため、皆自転車や徒歩で学校まで通っていました。トイレ、シャワー完備の一人部屋で、一人の時間も確保できる心地よい環境でした。

中国語コース 北京大学（中国） 柴田 奈緒、川柳 馨



柴田奈緒さん、ハルビン氷祭りにて

留学前に想像していたことと実際のギャップはありましたか？

北京大学の本科生も留学生も含め、留学先の大学生は賢い人ばかりでした。また、中国語を勉強中の留学生は英語を話す人が多く、驚きました。寮だけでなく、生活必需品を買う店、クリーニング、美容院などがキャンパス内にあり、環境が整っていることも意外でした。他にも、スマートフォン決済で買い物ができるので、日本に戻ると財布が邪魔に感じます。想像通りだったのは、日本に比べるとトイレが汚いように思いました。基本的に備え付けのトイレレットペーパーは無いので、携帯することを心がけてください。汲み取り式便所も多いです。

現地の生活で一番苦労したことや楽しかったことは何ですか？また、苦労したことをどのように乗り越えましたか？

慣れるまで中国語が聞き取れないことです。留学前は、中国語を話す機会が少ないので話すのも難しいです。履修している授業にもよりますが、先生の話が速いと思った方もいるみたいです。幸いにも、私は留学開始から1か月経つとリスニングに慣れました。また、日常的な会話の中で、相槌を打つタイミングも分かるようになりました。大学の授業内容は精読（文法）・口語（会話）の授業が週3回あります。選択科目の授業が週2回あり、听力（リスニング）・語法（文法）・小説（翻訳など）・中国文化講座（衣食住について）の授業など豊富です。特に難しいのは歴史の授業です。基礎知識も必要で、人名の中国語発音も慣れるまでに時間がかかり、難しいです。楽しかった点はやはり中国に来ている留学生や現地の学生など世界中に友達ができることです。ランゲージパートナーとカフェに行き、日中交流会にも参加しました。本科生で日本語を勉強中の学生もいたことが印象に残っています。物価が安いので、旅行に何度も行きました。中国では法律上、ホテルによって外国人の泊まれるホテルと泊まれないホテルがあるので注意が必要です。香港・マカオ・大連・上海などに旅行する時は「去哪儿旅行」「携程旅行」という飛行機やホテルを予約できるアプリを使うと便利です。

食生活について教えてください。

主食は白米です。食事が油っこくて胃がもたれた時もありました。時には衛生面も気になりました。しかしながら、徐々に留学生活になれるとともに解決しました。胃が鍛えられ、身体が適応するとともに食べ方のコツに気づいてからは、困らなくなりました。衛生面もそういうものだと割り切って過ごしてからは気にならなくなりました。具体的には麺の種類が多く、米の麺も小麦の麺も種類が豊富です。食費は安く、節約できます。

寮生活について教えてください。

寮は、北京大学内にあり、二人一組の相部屋です。ユニットバスと洗面のみ共同で、他は別々の部屋に分かれています。部屋の扉はオートロックシステムです。このカードにはお金をチャージすることもできます。カードにお金をチャージすれば、例えば、寮内のコインランドリーはカードでの支払いが可能です。コインランドリーは3元（日本円で約46円）払うと、一回使用することができます。

日本語コース 南 抒演 (ナム ソヨン) 1年生 韓国

あなたの日本留学生活での発見について聞かせてください。

日本に住んでいると、日本人と韓国人との考えが違っていると感じる事が多いです。韓国人は、日本人に対して、礼儀正しく思いやりのある人たちが多くという印象を持っています。実際に、私は韓国人として、日本で生活する中でそれが単なるうわさではないと気がつきました。例えば、新学期に日本人の学生との合同授業の時間にグループ会議に参加したのですが、日本人の友達は初めて会ったばかりにも関わらず、私に気遣って、緊張しながらも様々な質問をしてくれました。韓国に関心を持ってくれる学生が多く、嬉しかったです。日本語を話すことにまだ自信が無くても、日本人の学生と気楽に話すことができました。

ところで、日本には「思いやり」という概念を感じさせる言葉が多いと思います。そのため、日本では自然に他の人の気持ちを考える文化が浸透しているように感じます。具体的には、来日当初は日常生活でタクシ運転手の方や店員さんにも度々、「ありがとうございます」や「すみません」という言葉をかけてもらえることに驚きました。ちなみに、日本には「思いやり」という言葉がありますが、実は韓国語で「思いやり」を忠実に言い換える言葉は無く、代わりに「配慮」が使われることが多いです。

しかしながら、礼儀正しい日本人の友達と付き合う中で、寂しさを感じる時もあります。それは、友達とSNSなどの連絡に関することです。というのも、韓国では、頻繁に友達と連絡を取ることが普通で、私はいつでも韓国人の友達からのメッセージにすぐに返事をします。些細な話題であっても、基本的に友達とは数秒あるいは何分間隔で継続的にメッセージを相互に送り続けることが多いです。

一方で、日本人の友達は3時間あるいは6時間、さらには、翌日に返事が来る時があります。そんな時に私は「この子と親しいと思っていたのに、相手は同じように思っていないのかもしれない」という気がして不安になります。この悩みを日本で長く生活した韓国人の友達に相談すると、連絡のスピードは文化の違いで起こるもので、相手との親密さの度合いに比例するものではないと説明されました。多くの日本人にとっては、LINEは単なる連絡手段の一つです。私を含め韓国人の方が頻繁に連絡を取ることを重視する傾向があることに気がつきました。日本で生活することになった韓国人の留学生は、このようなSNSなどに対する考え方の違いや風潮を理解しておくの良いと思います。そうすれば、日本人の学生と交流するときに、連絡の頻度の違いでお互い誤解することなく親しくなれます。

他にも、驚いた点があります。日本の大学(同志社大学)は全般的にアカデミックな授業が豊富ですが、韓国の大学では、「ボーリング」や「歌唱」の技能向上を目指す授業もあります。他にも、韓国の大学の授業といえば、「恋愛」の授業です。この授業では男女二人組で映画を見に行くようなデートをすることが課題になっています。実際に、この授業をきっかけに、カップルが成立することもあるんですよ。このような授業は日本にはありませんね。



日本語コース授業風景



ディズニーランドのシンデレラ城の前で撮影

留学後の活動

GC 学部英語コースと中国語コースの学生は、約1年間の留学生活を送ります。留学をして何が変わったのか。留学でどのような体験をしたのか。留学をした3年生と留学前の1年生で留学について、素朴な疑問を対談という形式で話し合ってもらいました。また、すでに日本で留学生生活を送っている日本語コースの学生には、日本の大学を選んだ理由、留学中にやりたいこと、大学を卒業して将来やりたいことについて質問しました。

英語コース

具志堅：オーストラリアの Deakin 大学に行っていた3年生の具志堅みずほです。

山口：はじめまして1年生の山口真帆です。今日はよろしくお願いします。

山口：留学中の生活で衝撃を受けることはたくさんあったと思いますが、その中でも印象に残っていることは何ですか？

具志堅：最初に行った時に感じたことで衝撃的だったのは、オーストラリアに行けばオーストラリア人という人がいると思っていただけ、結構、中国人が多かったこと。それと、英語が第一言語じゃない人の方が多かったことかな。

山口：英語が第一言語じゃない人は街中とかに多いですか？

具志堅：街中でも大学でも。大学の授業を受けていても英語のネイティブスピーカーの方がどちらかというと少なかった。インド人とか中国人とかが私の周りでは多かったかな。

山口：留学行く前に準備しておけばよかったことってありますか？

具志堅：文法とか単語はそこまで気にしなくてもいいと思うけど、オーストラリアに行くならオーストラリア英語に慣れたほうがいいと思う。お年寄りとかは本当に何言ってるか理解できないこともある。基本的に、留学中に会う人でオーストラリア英語を話している人は少ないと思う。でも、たまに大学の先生がオーストラリア英語を話す時もあるから、オーストラリア英語には慣れた方がいいと思う。

山口：留学に行って変わったことってありますか？

具志堅：1年の留学で劇的にここが変わったってことはあまり無いけど、物事の考え方とか内面的な部分では変化があったと思う。

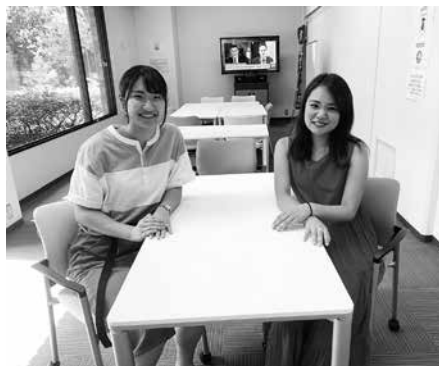
山口：留学で何が一番楽しかったですか？

具志堅：今まで知らなかった景色が観れたことかな。一人で街中をうろろして、自分の知らなかったことを新たに発見したりして、その発見が面白かった。あと、その発見を日記に書いたりしてた。

山口：日記って毎日書いてたんですか？

具志堅：毎日書いてた。今読み返すと、この日ここに行ってたなとか色んなことを思い出せるから、日記をつけるのはおすすめ。

山口：そうなんですね。私も書いてみます！
貴重なお話ありがとうございました。



中国語コース

安藤：初めまして、1年生の安藤紫甫です。

北條：4年生の北條恭兵といいます。

安藤：北京に留学されていたんですよね？

北條：はい、北京に留学していました。

安藤：留学に行って、どういうことが変わりましたか？

北條：北京に行って変わったことは、世界観が広がったっていうのがあって。日本の中にいると小さい考え方をしているなというのが、中国の友達と関わったりとか、他の国から留学してる学生と話したりしてるうちにだんだん自分の世界が大きく広がったような感じがするかな。

安藤：具体的に考え方が違うなと思った出来事がありますか？

北條：日本人は細かく考えるけど、留学に行ってから、ざっくり考えてから、細かく考えることが多くなった。

安藤：北京で印象に残っていることはありますか？

北條：毎年、行く直前に学生それぞれ北京でする課題を一つ決めるんだけど、僕の場合は75か所の名所旧跡を巡ることにした。全部地下鉄で行けるんだけど、本当に全部地下鉄で行ったらずごく時間とお金がかかるから、自転車も使ったりして75か所全部回ってきたんだけど、やっぱり広いなと思った。広いし、新旧の調和というか、古いものもある中で新しいものもたくさんあるから北京の歴史の深さを感じたかな。みんな旅行とか行ってた中、僕は徹して北京にしかいなかったから、ずっと北京の中で旅行してた。

安藤：その中で一番印象に残った場所はどこですか？

北條：雪が降った日に行った万里の長城はきれいだった。他にもいろいろおすすめはあるけど、あの日の万里の長城はダントツできれいだったね。

安藤：中国語の学習面で苦労したことはありますか？

北條：2年生の春まで頑張ってたけど勉強して、中国行くやん？一言も分からない。

安藤：え、そうなんですか。

北條：初めはこんなに分からないかっていうくらい分からない。CDは丁寧に発音してくれてて、スピードも聴きやすい速度で、勉強した範囲の言葉しか使われてないけど、実際は教科書に載ってない単語のほうが多いし、外に出るの難しかったかな。だから毎日スーパーに通って商品名を覚えたりとか、おばさんにこのスープどうやって作るのって聞いてみたりしてた。初めのうちは怖いけどだんだん慣れてくる。

安藤：最後にこれから留学行く人に伝えたいこととかありますか？

北條：友達を大事にしてほしい、現地の友達もだし他国から来てる友達も一生の友達になるから。もう一つは、中国語を生活の言葉にしてほしいな。「外国語」を喋ってるっていう意識は抜けにくいけど、それを超えたところに到達できればいいかな。

安藤：ありがとうございました。



日本語コース

関 珍泓 (ミン ジンホン) 1年生 韓国

日本の大学を選んだ理由は何ですか？

私は普段から言語の勉強に関心があり、双子の妹が隣で日本語の勉強をしていたのを見て、自然と日本語に関心が湧きました。その時は、高等学校の最高学年でしたが、日本語を学び始めました。私がしたいことができるように、いつも支援してくれる親のおかげで、日本語学校で専門的に学ぶことができました。そして、日本の大学に進学するため、日本留学を決めました。入試の勉強が大変な時もありましたが、自分で関心を持って始めたものだから諦めずに頑張ることができました。また、それだけではなく、周りから多くの応援をしてもらっていたこともあり、すごく力になりました。日本の大学に入学するまでの期間は、私がより一層成長することができた時期だったと思います。私にとって第1志望だった同志社大学に入学できたからこそ、有意義な学生生活を過ごしたいと思っています。

日本で4年間の留学中にやりたいことは何ですか？

今は1年生なので、実現できた数より、持っている計画の方が多いです。しかし、春学期には勉強以外の活動として様々な人々に会い、コミュニケーションをするためにサークル活動や言語交流会などに参加しようと努力しました。大学の授業を通じて勉強をすることも大事ですが、外国人の留学生として国籍を問わず様々な人々とコミュニケーションをすることも人生において重要な勉強だと思ったからです。これからもっと多くの人々に会い、活発にコミュニケーションをとる機会があることを楽しみにしています。私は言語の中でも、特に英語と日本語に関心を持っているので、1年生のうちに言語勉強を第一として集中しようと考えています。また、これからの在学中には、積極的に読書に取り組んで、日本語能力を向上させることと教養を養うことにも努めようと思います。さらに、英語圏留学プログラムにも参加して日本以外の国でも適応して自分のキャリアを形成していこうと考えています。

日本で大学を卒業し、どのようなことを将来したいと考えていますか？

卒業後の進路としては貿易会社に就職したいと思っています。日本で留学生活をしたからこそ、日本の企業に就職するのもいいですが、グローバルな場で働きたいと思っています。世界に大きく影響を及ぼしているアメリカで、貿易会社に就職して、そこで高度な日本語、英語、韓国語の3か国語を駆使しながら、企業の一員として仕事を果たしたいです。こういった目標があり、大学在学中、貿易に関する勉強もする意欲を持っています。私にとって目標は何よりも重要です。目標は私を動かすモチベーションともいえるため、大学生活を送りながら進路・未来に関する目標を徐々に明確にしていこうと考えています。私は、勉強以外にも多くのことを経験し、深く考えながら成長する人間でありたいです。



ゼミ紹介

GC 学部には合計15のゼミがあります。(英語コース:8/中国語コース:4/日本語コース:3) 英語コースと日本語コースでは3年生から、中国語コースでは2年生からゼミに所属します。ゼミでは、今までに学んできたことや経験を基に、自分の興味がある分野について、その分野の専門である教授のもとで深く研究していきます。興味関心が同じ仲間と一緒に学ぶことは、とても刺激的で面白いはずです！このコーナーでは、各ゼミ代表一人ずつにインタビューさせていただいた内容をアンケート形式でわかりやすくご紹介します。特に今後ゼミを選ぶ学生にとって、少しでも参考になれば幸いです。

〈質問内容〉

①学んでいることは？

②選んだ理由は？

③授業以外のイベントは？

④魅力を
お願いします！

〈玉井 & 伊勢ゼミ〉

英語コース3年生 小林 梨乃



- ①メディアにおける文化表象について学ぶ。多角的かつ批判的なものの見方を学び、視野を広げることができる。(例：ある映画を分析し、監督の潜在的意識を探る)
- ②担当教授が二人(玉井先生&伊勢先生)いるため、それぞれの価値観を学べるから。
- ③国立民族博物館(大阪)へのフィールドワーク(展示物や展示方法に込められたメッセージを探る) / 食事会(先生や先輩と) など
- ④自立した、マイペースな人達の集まり。

<松木ゼミ>

英語コース3年生 山田 歩



- ①人の行動を分析し、観光とコミュニケーションの本質について学ぶ。(例：観光地ではどのようなコミュニケーション行動が行われているのか) 人類学そのものが幅広い学問であるため、観光をベースに自由に自分の研究したい課題が選べる。
- ②元々観光に興味があったから。また、人類学の視点から、人の行動やコミュニケーションを分析してみたいと思ったから。
- ③観光地（奈良）でのフィールドワーク／縦コン／飲み会（先生と） など
- ④穏やかで、落ち着いた雰囲気。The 平和。

<竹田ゼミ>

英語コース3年生 白坂 麗美



- ①異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。ビジネスシーンにおいて、異文化を持つ人を理解し、良好な関係が築けるようになる。
- ②先生の中で一番面倒を見てもらっていたから。(Communicative Performance のクラスも留学中も担当だった) また、将来外国人と一緒に働いたりする際に、何かしらの形で異文化ビジネスコミュニケーションが必要になる可能性があると思ったから。
- ③シンガポールへの研修旅行（現地の企業訪問）／飲み会（先生や先輩と） など
- ④たくさん学んで、たくさん楽しめる。

<窪田ゼミ>

英語コース3年生 山口 雅生



- ①「社会を通じて言葉を見る」ことについて学ぶ。社会の中での言葉の役割や言葉と社会の関係について研究する。
- ②ゼミの内容に興味があったから。また、社会言語学は実社会で役に立たないと考えられがちだけど、社会を取り巻く問題を批判的に見つめ解決に向けて取り組むには論理的思考力が必要であり、これは社会に出て役立つスキルの一つだと思うから。
- ③食事会（先生と）／ゼミ旅行（台湾） など
- ④ゼミの教授とメンバーに恵まれている。

<中田ゼミ>

英語コース3年生 吉田 楓



- ①「モチベーション」について学ぶ。特に人間行動学と教育心理学について研究する。
- ②就活の際、人事やコンサル関係に応用がきくと思ったから。
- ③縦コン（先生や先輩と） など
- ④比較的少人数のため、先生と学生の距離が近い。学生主体の授業展開。アットホームで発言しやすい。

<南井ゼミ>

英語コース3年生 筒井 彩華



- ①中世以降のヨーロッパで、植民地主義や市民社会の成立、世界大戦などの世界史の大きな流れの中で、紅茶やコーヒーといった嗜好品がどのように到来し、根付いていったのかという歴史を学ぶとともに、それらがヨーロッパに与えた影響について学ぶ。
- ②元々高校で世界史選択だったから。また、イギリスに留学した際に紅茶にはまったこともあり、ヨーロッパの歴史や文化について関心があったから。

- ③コーヒーのテイスティング／お茶会／縦コン／飲み会／ゼミ合宿 など
- ④南井先生が親しみやすい。

< Hearn ゼミ >

英語コース3年生 三淵 雄太

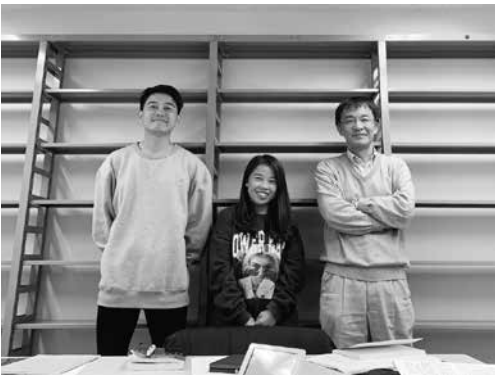


- ① “国と国との間に起こること”について学ぶ。春学期では、どうやって社会が成り立ってきたのか、なぜ戦争が起きるのかなど、歴史的な観点から理解を深める。また、秋学期は、各自が決めた卒業論文のテーマに沿ったトピックについて研究する。
- ② 将来のキャリアとして、国際情勢や国際問題を少しでもよくするための活動を主としていきたいと考えているから。(尊敬しているマイケルジャクソンの生前の活動に啓発されて)

- ③ 今のところなし。(今年度開講のため) だけど、1期生としてこれから様々な活動を創っていくつもり。
- ④ 国際関係論は答えが明確でなく、様々な仮説があるため難しい学問だけど、それに対して自分なりの仮説をゼミで共有、議論するのは面白い!

< 寺西ゼミ >

英語コース3年生 杉村 和也



- ① 認知言語学という分野のメタファー（隠喩）について学んでいる。例えば、普段使う「上に行く（出世する）」という言葉に関しては、物理的に真上に上がるなんてことは不可能。これも実はメタファー。
- ② ゼミの説明会で、先生のプレゼンテーション力に惹かれたから。
- ③ 飲み会（3、4年生合同）。厳しいことで有名な寺西先生だけど、飲み会の場では合コンの話などにも積極的に参加してください（笑）。

- ④ 少人数であること。「講義」という感じがあまりなく、先生も親身になって話を聞いてくださるため、自分の考えを一から十までアウトプットできる。

<中西ゼミ>

中国語コース4年生 大石 真央



- ①中国語圏の「言葉」と社会について、「中国の起源にまで」さかのぼって知識を深める。広大な土地で多数の民族が共存する中国だからこそその方言の豊富さ、また、その分布から人々の往来が見えるのが面白いところ。中国語文献についての研究を主に行う。
- ②元々人間の言語活動に興味があり、ある社会の文化や歴史がその社会に属する人間の言語活動にどのような影響を及ぼすのかということに興味があったから。

- ③国立民族学博物館（大阪）へのフィールドワーク（中国語圏以外の地域の歴史や文化にも触れられる）／食事会（先生と） など
- ④アットホーム。発言しやすい和やかな雰囲気、一人ひとりが個性を発揮できる。

<内田ゼミ>

中国語コース4年生 今井 愛華



- ①中国語圏の地域について研究する。（例：中国の対アフリカ支援）
- ②自分が内田先生のもとで勉強したいと思ったから。また、政治と経済を扱うため社会に出た後にも役に立つと思ったから。
- ③ゼミ遠足（2年生）／ゼミ合宿（4年生） など
- ④勉強は大変だけれど、卒業時にやり切った！と胸を張れそう。

<唐ゼミ>

中国語コース4年生 堀 日菜子



- ①中国の文化について研究する。主に中国文学（2年次）と中国の現代文化（3年次）について学ぶ。
- ②留学前に中国について学び、触れたことがない中国文学を読みたいと思ったから。
- ③特になし。
- ④中国について様々な角度から触れられる。先生が親身になって相談や添削をしてくれる。（少人数のため）

<郭ゼミ>

中国語コース4年生 山崎 栞



- ①現代中国語文法や個々が学びたいトピックを持ち込んで学習する。
- ②中国語を学習する中で街中の中国語標識や中国語翻訳に興味を持ち、郭ゼミではそれらについて研究できると思ったから。
- ③縦コン（2～4年生合同） など
- ④アットホームな雰囲気、先輩後輩の交流が多い。

<須藤ゼミ>

日本語コース3年生 白 舒詠 (ペク ソヨン) 韓国



- ①日本語コミュニケーションで使用される音声
を分析し、イントネーションの変化や雑談表
現、ぼかし表現などについて研究する。
- ②元々日本語のイントネーションやアクセントを
美しいと感じていて、より深く勉強したかった
から。また、先生の授業の仕方や課題のレベル
が自分に合っていると思ったから。
- ③クローバー祭への参加 (日本人と外国人間の
コミュニケーションの壁を崩すための活動と
して) など
- ④学生と先生間のコミュニケーションが活発。

<鈴木ゼミ>

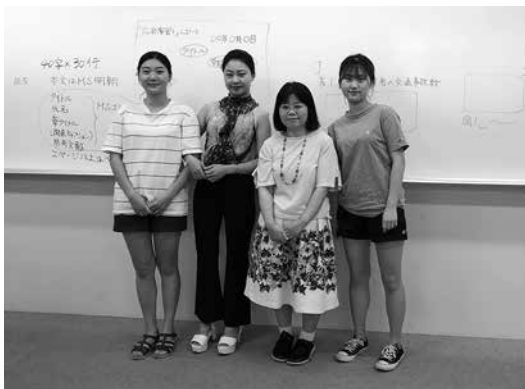
日本語コース3年生 張 彩隣 (チャン チェリン) 韓国



- ①日本の社会問題に対する分析力を高め、ミニ
スピーチや論文研究を通し、論理的に思考す
る力を身につける。
- ②先生が豊富な社会経験を持っていらっしゃる
ため、日本社会についてより深く、詳しい話
を聞くことができたと思ったから。
- ③GC生なら誰でも参加できるグローバル料理
大会 (ゼミ主催) など
- ④自分をステップアップさせてくれる。

<脇田ゼミ>

日本語コース3年生 黄 智映 (ファン ジョン) 韓国



- ①日本の現代文化と伝統文化、また異文化コミュ
ニケーションなどについて学ぶ。日本と母国の
話し方の違いや文化の違いがわかるようにな
る。先生からだけでなく他メンバーの学生から
も他の国の文化について学べる。
- ②1年生の時、異文化理解とコミュニケーションス
キルという授業で学んだことが興味深かったた
め、より詳しく学びたいと思ったから。
- ③京都の伝統文化を体験及び見学 (先生紹介) など
- ④異文化コミュニケーションが好きな人にぴったり。

みんなの本音

ゼミ内にもともと友達同士の人達もいて楽しそう。

イベントが多い。

授業のテンションが高い。

ゼミに知名度がある。

多国籍なメンバー。

ゼミの研究内容を説明しやすい。

正直、
他ゼミの羨ましい
ところは？

学生同士の交流が活発。

発表が比較的少ない。

どのゼミの内容も面白そう。

メンバーが多い。

ゼミで海外に行ける。

出費が多い(笑)。

もっとイベントを増やしてほしい。

特になしという
意見多数でした！

就活の話をもっとしてほしい。

できればここを
改善してほしい！
ところは？

少人数のため、
1人にかかる負担が大きい。

教室を一階にしてほしい(笑)。

授業回数を増やしてほしい。
(週一では議論しきれない)

アットホームすぎるから、
メリハリがつけられると良い。(強いて言うなら)

いかがだったでしょうか？ゼミは大学生生活の学びの中心と言っても過言ではない、大切なものです。これからゼミを選ぶみなさんは、教授や先輩に話を聞く、ゼミ説明会に参加するなど、積極的に情報を集めてよく考えて選びましょう！

Seminar Project 特集

必須授業である Seminar Project（セミナープロジェクト（通称：セミプロ））とは、GC 学部英語コース・中国語コース・日本語コースの4年生が合同で行うプロジェクトです。コースの壁を超え、3年間学んだことを活かし、教員ではなく学生が主体になって一から企画を立案、実行します。ここでは、個性豊かな2019年度の全7プロジェクトを紹介します。

①在日外国人と共につくる Diversity-Inclusion-多文化共生プロジェクト

日比 荘一郎



私たちのチームは「在日外国人と共につくる Diversity-Inclusion-多文化共生プロジェクト」というチーム名を掲げて活動しています。このチーム名にあるように、私たちが扱うテーマはとても抽象的です。そこでは、様々な観点から、世間に国際的理解を深めて行けるような活動をチーム別に立ち上げ、創出しています。例えば、外国人実習生へ大学の施設案内をしたり、宗教による食文化の違いなどを子供たちに紹介しています。

②総料理長とのコラボ

紺屋 水希

私たちのチーム名は「料理長とコラボー Mochi Mate、ギブミーベジタブル、キロロホテル」です。食文化を通じて国際理解を広めようとしています。様々な状況の変化や意識のずれの違いにより、当初の料理長とコラボをするという企画からは、離れてしまいましたが、現在はチーム別に分かれて様々な側面から食と国際理解を考え、イベントを企画しています。京野菜を分析してみたり、餅つき大会を開いて日本の伝統的な食文化を広めようともしています。様々なぶつかりや障壁がありました。今は全員が食と人の繋がりを楽しみながら活動できています。



③多文化共生型映画上映プロジェクト

森 麻菜美



私たちのチーム名は「Bridge Cinemas」です。私が企画したこのセミナープロジェクトは、映画と一緒に見るという空間を共有することによって、地域の人と外国人をつなぐことを目的にしています。私自身が留学中に友達を作ろうとしてもコミュニティに自ら入っていく難しさを感じていました。また、入ってから生まれる出会いにより、その大切さもよく知っています。だからこそ、日本の地域社会にもっと外国人が繋がれる機会を作ってあげたいという想いがこのセミナープロ

ジェクトを企画する時に込めています。また担当の河原先生と卒業するまでもう一度授業と一緒に何かしてみたいとも思いました。

④サブカルチャー発プロジェクト

坪嶋 孝佑

私たちのチーム名は「サブカルインフルエンサー」です。日本が今以上に誇るべきサブカルチャーを外国人に知ってもらいたいという想いで活動しています。サブカルチャーとは、誰でもわかるようなその国の代表的な文化ではなく、あまり知られていないけどユニークな文化のことです。例としては、オタク文化などがあります。それを私たちは様々な情報発信の媒体を用いて、独自の方法で紹介しています。



⑤フリーペーパーとSNS 日本発信プロジェクト

貞野 昭良



私たちは「Discovery Kansai (ディスカバリー関西)」というチーム名で活動しています。主に、フリーペーパーを作成したり SNS を通じて関西を中心とした日本を紹介しています。私たちはフリーペーパーでよくある観光地などを紹介するのではなく、よりローカルな「知る人ぞ知る」部分をトピックとして取り上げています。例えば、地元の人がよく通っている店などを取り上げることで、より日本人の普段の生活を体験できるような情報発信を行なっています。

⑥MATSURI:GC流国際交流&地域活性化

藤原 康太郎

私たちは「GC わっしょいず」というチームとして、留学生を地域のお祭りに参加してもらったり、地域のお祭りを彼らと一緒に盛り上げることをしています。つまり、お祭りという観点から、国際交流と地域活性化に貢献しようと日々チャレンジしています。これまでに自分たちでお祭りを開催したり、地元のお祭りに参加しました。自分たちが慣れ親しんできたお祭りを積極的に盛り上げることでチームとしての意見を発信しながらも、とてもまとまりができました。



⑦共に生きる社会へー未来の大人と考える

江崎 航平



私たちのチーム名は「普通ってなんだろうー違ってええねん、個性やねんー」です。主な活動は、中学校と小学校に訪問して子供たちに人の多様性について説明することで多文化との共生をより身近に感じてもらえるようにしていることです。具体的には、障害者の方達、外国人やLGBTなどについて考える機会を作っています。それぞれが抱える実態や課題を調査し、みんなで役割を持ち自分たちのやり方で多文化共生を伝え、考えています。

現代テクノロジーの発展により、実際に向かい合っ
てのコミュニケーションの減少が増えているように感じます。だからこそ、セミプロのように本当の意味で人と接しコミュニケーションをとり何かを成し遂げる経験を、是非リーダーとして成し遂げたいと思いました。正直、私はリーダーに向いていないタイプかもしれませんが、メンバー一人ひとりが主体的に参加してくれているおかげで、このプロジェクトが成り立っています。



特別 企画

セミナープロジェクト全リーダー緊急会談
～前代未聞の全員集合～

「うちの真実ぶっちゃけます。」

●リーダーになった理由。いざ、なってみてどうでしたか？

江崎：リーダー決めのタイミングで担当教授からリーダーに求められる資質のアナウンスがあったときに「ああ、ますます向かないなあ……」って思ったけど、同時に思ったのは苦手なこととかに社会的な責任を気にせず挑戦できる最後のチャンスだと思って手を挙げました。自分で向かないって既にわかってて手を挙げるのは勇気が必要だったけど。でもやっぱり社会にでてからはこうやって純粋に物事に試したりトライなかなかできないなあって。

藤原：これ本音で言ってええんやんな（笑）？まず、自分が考案したプロジェクトなのでリーダーになりました。正直、人の下でやるよりかはまとめる方が得意だし、その方が楽しいと思ったので。いろいろ考えた結果、やる以外の選択肢がなかったです。

貞野：魅力的な先生が担当だったのでリーダーになりました。先生がきれいな方なので。

一同：なんやそれ（笑）。

貞野：というのは冗談で、今まで取ったことがない先生の授業を取りたかったんですね。人を動かす力と体を俯瞰して見る力が社会に出て特に必要だと思ったので、その訓練のためですね。

坪島：勝手に周りにリーダーに指名されてた。なんでやる（笑）。

江崎：その分期待値が高かったんじゃない（笑）？

森：自分でこのプロジェクトを企画したのでリーダーになりました。周りもサポートしてくれるので頑張ってます。

紺屋・河原：美味しいもん食べれるかなと思って頑張ろうと思いました！個性の強いチームなのでまとめるのがとても大変でした。でも、今は大きく3つに役割を分けて協力しながら進めることができています。

日比：人数が多く、一人のリーダーがまとめるのはとても大変だと感じたのでそれをサポートしています。雰囲気はとてもアットホームな感じで進めています！



●他のチームの良かったところや驚かされたところがありますか？

貞野：わっしょいずの企画・実行力やスピードの速さにはすごく驚かされました。

紺屋：確かに！中間発表のプレゼンもすごかった。

藤原：目標がしっかり固まってたからかな。あと、自分たちが他のグループより進んでいることを“見える化”してメンバーのモチベーションを底上げできるようにがんばりました。

藤原：僕は中間発表での貞野くんが衝撃だった。大勢の先生方と学生の前で15分間くらいの長いプレゼンを一人でできるのすごいと思ったし、終始内容が一貫してた。

貞野：逆に、人を動かすのがすごい難しかったんだよね。プロジェクトが中々予定通りに進まない中で共有する時間があまりとれなくて、結果的に自分1人でやることになっちゃたんだよね。でも、色々な人に関わってもらってできたプロジェクトだから、最終発表はもっと壮大に、複数人でやりたいなあと思ってます。

堺：他にしんどかったところとかある？映画とか？

森：確かに。映画も大変だった。プレゼンチーム、映画を選ぶチーム、ポスターのチーム等、色々なチームがあってまとめるのがすごく難しかった。もうポスターが完成するのにプレゼンがうまくいかなくて、映画を変えなきゃいけないってときもあって……。



●別のチームに入るならどこに入りたい？

藤原：全部やってみたい。自分が他のチームでどこまでできるかを試してみたい。

江崎：映画とか魅力だよね。料理とか、個性が強いチームとかに入ったらどうなったんだろうってすごく気になる。

紺屋：すごい色々なところでお互いの勘違いとかがあって大変だった。それが理由で中間発表の前でプロジェクトが止まったり……。でも、まとめることに関しては自分自身すごく成長できた。

貞野：祭り、映画とかおもしろそうだった。特に、映画とかはクリエイティブな人が多いから、すごくポスターとかもおもしろかったし。

藤原：モザイクとか、中間発表でYouTube使って動画流しててめちゃくちゃおもしろそうだった。みんなで何かを作って発表するっていうのはすごく良い思い出になるし。

坪島：確かに動画っていうのは一生残るし、やってみて良かった。

● 普段の様子は？

江崎：僕たちのチームは、小中学生相手に授業をするところだから、「〇人集まった」って目に見える実績はないんだけど、みんな積極的で普段のディスカッションが活発的なのが良いところかな。すごく議論が白熱したときはみんな自主的に居残りで30分くらい延長したこともあった。

森：最初は自分を持って人が多いうまくまとまるまでに時間がかかったけど、その分まとまった時に発揮される力はすごく大きいものになる。何かやる時は個人個人がすごく熱量を持って取り組んでくれるから。

● セミナープロジェクトの苦労した点

藤原：先生たちにもっと自分たちの頑張りを見て欲しい。学生主体のプロジェクトだから、授業外での活動も多いから……。

森：初めの方はみんなが就活で忙しかったから結構リーダーに負担が来ちゃって大変だった。

● それぞれが考えるセミプロとは？

紺屋：学生主体で動く授業ってなかなか珍しいからすごく勉強になった。大きなお金が動き、外部組織との連携も同志社の顔を背負って進むから責任感もすごく重いし。社会に出た時に絶対活きると思う。

貞野：確かに。タイミングとしてはすごく忙しい時期にあってしんどいけど、普通の大学の授業で外部と関わってものごとを進めるって社会に出る上で大きな財産になると思う。

坪島：授業自体はすごく良い経験になると思う。ただ、プロジェクトに入る前と後で、内容のギャップはある。自分が思ったものと違うとか。やっていく中で方向性も変化していくし。



● 自分のチームを振り返って。良かった点・反省点など。

貞野：先生には好きなことをやらせてもらえるんだけど、その分の主体性が伴う。どうすればいいか迷う時もあるけど、先生はあまり干渉せずに後ろから優しくサポートしてくれたからすごく助かった。あと、周りを動かすのがすごくしんどかった。

- 日比**：うちは主に児童施設や小学校での取り組みが多かったんだけど、先生の顔が広いから、連携がすごく取りやすかった。やっぱり教授ってすごい（笑）。
- 紺屋**：先生が結構ストレートに物を言うから心に刺さる（笑）。でも、言ってることはすごく的確だし、参考になる。反省としては、最初の方は周りの意見をうまくまとめたりするのができなかったこと。でも、途中で計画を作り直したりして大変だったけど、なんやかんや楽しかった。
- 森**：先生がすごく学生思いな方でした。最初はぶつかりあいもあったけど、みんなが「映画好き」という共通点があるから最終的には一致団結してプロジェクトを成し遂げることができた。
- 坪島**：先生がめちゃくちゃ良い人！議論がずれると、そっと修正してくれる。あと、雑談がすごく上手なのでしんどい雰囲気だったときはいつも助けられた。アットホームでのびのび進めることができたのもそのおかげ。
- 江崎**：うちの先生はあまり干渉はしないんだよね。一見、あんまり学生を見てないように感じるけど、実はめちゃくちゃ見てる。人間洞察力がすごいのかも。プロジェクトの中で気をつけたことは、利益至上主義にならないこと。みんなお金や動員人数とか目に見えるものをすぐ優先しちゃいがちだから。個人的には、無駄に見てることの中にも大事なことってたくさんあると思うてるし。学生のうちだけじゃん、利益ばかり気にしないで良いのって。

●後輩たちへメッセージ！

- 日比**：リーダーは大事。プロジェクトを進める上で全ての軸となるから。
- 紺屋**：セミプロは今まで話したことない人たちとたくさん関われるチャンスです。ぶつかることもたくさんあると思うけど、それを乗り越えると成長が待ってます。
- 森**：来年の企画をしている人たちへ。自分たちで考えたプロジェクトをやるなら最後までやりきれるように頑張ってください！
- 坪島**：気楽に進めれば良いと思います。GC 学部の学生なら最終的には絶対どうにかできる！
- 貞野**：リーダーになる人たちへ。たくさん失敗するし、周りを動かすことは大変だけど、へこまず頑張って！そうすれば周りは必ず応えてくれます。
- 藤原**：自分のやりたいようにやれば良いと思う。やったらやった分、その先の世界も見えてくる。大学生活で何か振り返れるものを作る最後のチャンスです！
- 江崎**：なかなかセミプロがどんなものかイメージが沸かない人たちへ。良くも悪くも、GC 学部生全員が通らなければならない道です。どーせなら有意義なものに、ちょっとでも自分にプラスになるように努力すれば必ず成長できます！

在学生 × 先生 × GCE

GC 学部英語コース。それは90人ほどで構成された小さいコミュニティ。しかしその一人ひとりが驚くほど色濃い個性を光らせています。それは在学生に限らず、卒業生にも言えることで、その OBOG の中にはあっと驚くことをしていた方も。このコーナーでは、本学部の竹田宗継准教授とのインタビューを通じて、GC 学部の特徴や、GC 学部生のエピソードに迫っていきます。対話しているイメージをしながら、最後までお付き合いください。

(竹田宗継准教授、鋤柄裕大)

鋤柄： *Cosmos* 副編集長の鋤柄です。よろしくお願いします。今回は「GCE を一言で表すなら」と「GCE 生に驚かされたエピソード」について伺いたいと思っています。早速なんですが、GCE というコースを“one sentence in English” でいただけたらと思います。

竹田： あ、英語で？

鋤柄： そうですね。英語をお願いします。

竹田： インタビューは英語じゃなくていい？

鋤柄： あ、インタビューは日本語をお願いします (笑)。

竹田： 英語で“United in Diversity” っていう言葉。これは EU のスローガン、モットーなんですよ。日本語に訳すと「多様性の中の統合」とか「多様性の中のつながり」ですね。

鋤柄： 多様性の中の統合ですか。

竹田： EU では統合と訳していますが、まあつながりと訳してもいいかな。これを思いついた理由というのが、GCE に来ている人たちはそれぞれ色々な背景とか価値観とか、過去の違った育ち方とか、そういう人たちが、この「グローバル」というのをキーワードに、この学部に来ているということ。そして、それぞれ興味のある分野について勉強するわけですよ。そういう多様性のある学生たちが集まっていて、それぞれが自分たちの価値観を持っているけれども、やっぱりグローバルを目指して、この学部で色々なことを学んで、社会に出て行きたいという共通の思いを持って、つながりあっているという感じがありますね。

鋤柄： United in diversity……。

竹田： そういう意味では、この言葉が結構当てはまるんじゃないかという気はしたんですよ。

鋤柄： そうですね。僕も GCE に入って驚きました。90人もいないコースなのに一人ひとりがもう眩しいほど色が違うっていうか。



竹田：そうですね。そういう意味では他の学部に比べて、いろんな人たちが集まってる学部じゃないですか。まあ受験の形態にしてもね。一般の人もいれば、公募の人もあるし。だけど、みんな目指すところは同じですよ。

鋤柄：たしかに。

竹田：だからいろんな自分たちの意見とか、価値観を持ちながらも、学部の中ではつながりあっている。それから卒業してからもね、みんな仲良いですし。

鋤柄：そうなんですか！卒業後もつながりが絶えないんですね。

竹田：そうですね。それぞれが違う分野で活躍してるけれども、お互いがつながりあってるというね。なんかあれば集まったりね。東京にいてる人なんかは、人数多いからそういうこともあるんですよ。

鋤柄：卒業生に会う機会が結構あるんですね。

竹田：まあたまにこっちに来たりとかね。それが学部の特徴の一つであり、いいところじゃないかなって思いますね。

鋤柄：そうですね。卒業後もつながりがあるぐらいに強いものがあるってことですもんね。

竹田：そうそう。それでその輪がだんだんとね、広がっていくということ、我々も期待しているんですけどね。

鋤柄：この言葉は想像もしてなかったんです。これ初めて今聞いたんですけど、とてもいい言葉だなって思います。

竹田：そうですね。僕はこのことば大分前から好きでね。これがパッと思いついたんですよ。

鋤柄：一瞬で好きになりました。GCE を一言で完璧に表しているような気がします。

竹田：それぞれが自分たちの価値観に基づいて進んでいってる。だけど、みんなつながりあってるってことです。

鋤柄：そうですね。それは目指すところが似てるということで、方向性が似てくるということなんですよ。

竹田：やっぱりみんな「グローバル」っていう一つのキーワードの下でつながってると思うんですよ。最初の答え、こんなんで大丈夫か？

鋤柄：大丈夫ですよ！3単語でGCEの全てを表していると僕は思いました。

竹田：まあ、私の思いとしてはこんな感じ。

鋤柄：ありがとうございました。それだけ色濃いメンバーが揃う学部だからこそ、色々なことを考える学生がいると思うんです。その中で、今までGCEの学生に驚かされたエピソードは何かありますか？

竹田：ちょっと色々考えてみたんですけど、さっきのグローバルってということで話すと、1期生の竹田ゼミの学生で、風呂敷を担いで世界一周をしたっていう人がいるんですよ。

鋤柄：何を担いでですか？

竹田：風呂敷（笑）。

鋤柄：風呂敷！？

竹田：彼は「タビッポ」という、学生が世界一周をどうやってやるかを提案するコンテストがあって、そこで優勝したんですよね。それはどういう形で、どういう目的で世界一周するかということ提案してプレゼンをやるんですよ。1,000人ぐらい聞きにくらしいね。そこで彼が最終残って優勝したんですよね。それで世界一周の航空券をもらって。彼が提案したのは、とにかくシンプルに風呂敷だけで世界一周をしますと。フロシキオロジーとか言うてましたね。彼は実際に、4年の時休学をして10か月17か国に行って来たんですよ。

鋤柄：在学中の出来事なんですか？

竹田：そうそう、在学中に。風呂敷世界一周。まあちょっと変わってるよね。

鋤柄：ちょっとというか。

竹田：実際に風呂敷パッカーっていうて、風呂敷担いで行ってたね。

（竹田先生に渡された写真を見る）

鋤柄：これですか？しかも風呂敷めっちゃちっちゃいじゃないですか！

（紙面に「無駄を落とした風呂敷生活。目指せミニマリスト。」と記載されていた。）

竹田：これ、よう行って来たなと思いますね。変わってるでしょ。竹田ゼミでね、1期生の卒業式の前に卒業旅行で釜山に行ってね。彼がまだ旅行してる時に。全員で10何人かな。そこに彼は世界一周の最終地点として釜山まで来たわけですよ（笑）。それで合流して、一緒に帰って来ましたね。

鋤柄：いや、すごいですね。おもしろいですね。

竹田：たしかに風呂敷担いで来てましたよ。

鋤柄：こんな人いたんですか。やっぱり変わった、いや変わりすぎた人がいるんですね。

竹田：というのが一人。

鋤柄：まだいるんですか！

竹田：もう一人は、これも竹田ゼミなんですけど。

鋤柄：竹田ゼミ多いですね（笑）。

竹田：3期生の人で、彼女も1年間休学をして、アフリカに約1年間ボランティアで行ってた。

鋤柄：ボランティアでアフリカに？

竹田：ボランティアで行ってました、確かね。

鋤柄：すごいですね。現地の村で生活しながらですよ。

竹田：アフリカ児童教育基金。そういう会があって、ボランティアで行ってたみたいですね。

鋤柄：すごいですね。竹田ゼミに入る学生はこういう人が多いんですか。

竹田：傾向があるんかも分らんね。

鋤柄：GCE で驚かされた話は竹田ゼミの学生が多いと。

竹田：あとは聞いた話になるんでね。窪田ゼミにも船に乗って世界一周した人もいって、船の上で仕事する船員としてね。それあんまり詳しくは知らないけど。他にも色々いると思うよ。

鋤柄：今まで卒業生在校生含め1,000人ほどの学部生でこれだけ他にも世界中に行ってる人がいるとなると、GCE 生だけで「イッテ Q」(TV 番組) 作れますね。

竹田：そうそうそう (笑)。でもほんまにそれぐらいの数は行ってるかも分らんね。海外ね。たくさん出てるでしょ。仕事ではもう駐在とか、実際に今行ってる人も多いからね。

鋤柄：そうですね。駐在も、ほかの学部であればそれなりに驚かれることで、海外駐在ってそこまで身近にあるもんじゃないのかなって思うんですけど、GC を卒業された先輩は違いますよね。

竹田：やっぱりね、海外を目指してる人ばかりやからね。すごい色々な人がいるけれども、つながりあっているというね。

鋤柄：そうですね。海外駐在とかもすごいことだとは思んですけど、それを驚いたエピソードに入れてしまうとキリがないっていうのも GCE らしいなと思います。

竹田：そうやね。駐在に行くのは、自然な流れですよ。世界一周とか、こういうのを学生の間に行ってる人が結構いますね。

鋤柄：それがすごいなと思って。世界中でいろんなことをやっている人が多いんですね。

竹田：いろんな形で海外に広がって行くやろうしね。世界中にある GC のネットワークは大切にしてほしいなと思うよね。そのつながりをね。

鋤柄：やっぱり小さい学部、コミュニティーだからこそつながりも持ちやすいというのもありますよね。

竹田：それがつながりあったら、また一つの大きな力になる気がするしね。

鋤柄：つながりってすごい大事なんだなっていうのは感じますね。“United” ですね。

竹田：そうやね、“United” やね (笑)。

鋤柄：これ GCE のモットーにしたらどうですか。“Facilitator” とか書いてある下に、ドーンって。

竹田：まあそれもありかも分らんね。まあ結局世界中でつながる部分とか、機会がいっぱい出てくると思う。いろんな方面で活躍してるひとがやっぱり多いわけですよ。それ見てたらやっぱり各々の分野でグローバルに言う部分をみればつながりあって “United in Diversity” やなって思うね。

鋤柄：驚いたエピソードも含め、GCE を表す “United in Diversity” につながってるんですね。貴重なお話ありがとうございました。

OBOG インタビュー

GC 学部も2020年で創設10周年になります。海外留学、セミプロ等、大きなテーマについて考える機会も多いので、卒業後の進路も多岐に渡ります。様々な進路先も先輩方が創設以来、創り上げてきたものです。ここでは、そんな先輩方へのインタビューを取り上げます。

水谷 隆志さん（住友商事グローバルメタルズ株式会社）

GC 学部に入學して良かったこと

カリキュラムが充実していることが良かったです。1点目は留学に行くことで、色々な人と関わることができました。現在、中国で仕事をしていますが留学で1年間修行を積んでおくことで、現地の文化などが分かっているので、現地人ともスムーズにビジネスができています。また、周りの同級生たちも多種多様な価値観を持っていたので、学校に来ているだけでいつも刺激がもらえるような面白い環境でした。



就職活動に向けて、授業以外でやっておかなければいけないこと

全体的に授業内で外国語に触れる機会は他学部の学生よりも多かったのですが、母語である日本語で専門的なことを学ぶ機会があまり無かったかのように思います。従って、自分の興味のある仕事の専門知識に関しては、例えば本を読んだりして自分で勉強しておく必要があるかもしれません。

GC 学部で学んだことを活かしてあなたが会社に入ってから創り上げたもの

相手が見える環境創りに取り組みました。様々なバックグラウンドの人と取引する中でメールや電話での連絡がメインだったので、なかなか相手の人柄などを理解することに苦労しました。従って、海外の方との取引でもなるべく直接会いに行くようにしています。さらに、社内のメンバーに取引先の顔が見えるように、実際に海外から日本にきていただいて、研修を行うような制度を創りました。



在学生の後輩にメッセージをお願いします！

大学生というのは今までと違って「大人として」の自由度が高い時間を持っています。社会人になると、なかなか旅行に行く時間や本を読む時間などはなかなか取れません。学生のうちに夢中になれることを見つけて、後悔のないように本気で取り組んでください！

今の仕事を選んだ理由・やりがいと大変なところを教えてください

子どもの時からよく旅行していたので、自分もホテルで働きたいという憧れを持ちました。また、英語や日本語などの外国語が話せる仕事がしたかったので、現在フロントスタッフとして働いています。大変なところはフロントスタッフなので夜勤があることです。月に大体4回から6回入っていますが、夜勤による生活リズムの乱れを整えるのがしんどいです。あとは、色々なお客様と接することができませんが、中には難しいことを言うお客様もいます。つい感情が爆発してしまいそうな時もありますが、常に笑顔でいなければなりません。しかし、もちろん優しいお客様と接する時はすごくやりがいを感じます。ここで4年働いていますが、「また来たよ」と私のことを覚えてくださるお客様がいた時はとても嬉しいです。この前もイタリアからよく来られるお客様が覚えてくださっていて、そういった瞬間にこの仕事をしていてよかったと思います。



就活を振り返って、一番印象に残っていることと面接の質問など

もう5年前のことです。はっきり覚えていませんが、エントリーシート (ES) の質問で未だに印象に残っているのが「自分はこの人です」と、自身を表現する写真を貼って説明するというものでした。例えば、遊びに行った写真を見せて自分を表現したり、自分を表す絵を描いて説明する。あとは、「1億円あったら何をするか」ってその場で聞かれ、これにはさすがに焦りました (笑)。

面接では会社の志望動機はよく聞かれます。あとは、大学の生活に関して、なぜ日本の会社に就職しようと思ったのかなどが聞かれます。あと、日本で就活をする場合「帰国は考えてないです」と答えた方がいいかもしれません。バイトの面接の時もそうですよね。



今も仕事の中で生きている大学での学びを教えてください

GC 学部は実用性のある科目が多かったです。特に3年生のときに受けていたビジネス日本語という科目が役に立ちました。春学期と秋学期を通して ES の書き方や面接の練習など、日本の就職に関することをきちんと準備できました。また、4年生のとき、セミプロで「あなたのお店、グローバル化しませんか？プロジェクト」というものを行いました。外国人旅行者や学生に向けて (安くても美味しい) 京都の飲食店を宣伝するパンフレットを作りました。このプロジェクトで調べた内容や資料は今でもホテルの仕事で役に立っています。

日本の企業で働いてみて思うこと

日本語で仕事をするので、日本語がさらに上達しました。でも、言葉の壁というよりも、考え方の違いなど文化の壁に多くぶつかります。日本の社会について大学よりも深く学ぶことができます。

後輩にひとこと! 自分らしく、楽しい学生生活を過ごしてください!

OBOG 座談会

場所：We WORK 六本木

GC 学部も今年で創設10年目になります。海外留学、セミナープロジェクト等、大きなテーマについて考える機会も多いので、卒業後の進路も多岐に渡ります。様々な進路先も先輩方が創設以来、創り上げてきたものです。ここでは、そんな先輩方へのインタビューを取り上げます。



笹田賢太郎・IT
(賢太郎)



榎村あおい・メーカー
(あおい)



山本舞美・人材
(舞美)



山岸燎・商社
(燎)



江崎航平・GC 学部5年生
MC
(航平)



冢村拓活・GC 学部3年生
Cosmos 編集長
(拓活)

MC 航平：では、編集長の拓活くん、早速、自己紹介してもらおうか。

拓活編集長：あ、3年生の……こんな感じでいいですか？

航平：めっちゃ緊張してるやん！

<We Work 六本木が和やかな雰囲気につつまれる>

航平：まあ令和初の *Cosmos* なのでテーマは慣例を「創す（くずす）」ということで、今回は答えられるギリギリを攻めた「今までにない新しい *Cosmos* を作っていこう」ということになりました。

OBOG 一同：ほお……

航平：だから本音を引き出す意味でも、今回は座談会形式にしてみなさんの会話の中から読者に耳寄りな情報をピックアップしようと思います。

賢太郎：確かによくある説明会とかインタビュー形式だと悪いことは言えなさそうやもんな。

航平：でしょ？だからどっちかっていうと今日は *Cosmos* のためっていうよりかは、OBOG のみなさんがメインです。編集員はあくまでサブ。

OBOGの心の中：(何聞かれるんやろ……)

航平：そのために今回は業界をばらけさせたわけですよ。

<OBOG 各々プレートに書かれた業種を見合っとうなずく>

航平：だから談話してるうちにお互いの業界のリアルを知って「まじか」とか「まって、嘘やろ」みたいなのが絶対あると思う。お互いを刺激し合う意味でも今日は皆さまのために時間を使ってください。

OBOG：うんうん。

航平：それに伴ってルールを設けました。ギリギリの質問をねらってくる中で、途中とんでもない質問があると思います。そこで答えたくない場合はNG札を出してくだされば結構です。賢太朗くん以外は！

賢太朗：ワシは全部答えるよ。給与明細もってきたるか(笑)？

<一同笑>

座談会スタート

拓活：入社後のギャップってありましたか？「思ってたのと違った」みたいな。

航平：じゃあまずは「会社入る前と入ったあとの、ギャアアツッ！」

賢太朗：んー、意外と上下関係は大事だよ。

航平：もはや大手だけどー応ITベンチャーだもんな。確かに意外。

あおい：私は……なんやろう。面接時の「これから挑戦していく」の言葉の裏かな。

航平：どうゆうこと？

拓活：なるほど。「新たに始めます」は裏を返せば「弊社は変わらなければいけない。」ってことか。

あおい：そうそう。例えば「海外事業比率を高めていきます」は、海外展開はこれからとか。

航平：(GC ならではの基準というか悩み……)

あおい：あと、大手あるあるかもやけど、会社自体が大きいからベンチャーの方が会社の意思決定が早いとか。まっ、それでも変わろうっていう意識は見えるけど。

航平：人材系はどうですか？

舞美：もちろんいいギャップと悪いギャップがあって。まず、良いか悪いか分からんけど年功序列はないし、あと研修が他と比べてめっちゃ短い。初めはめっちゃしんどかったけど、得るものは大きかったと思う。

賢太朗：まっ、俺的にはギャップは思ったよりって感じよ。俺は2年目で課長くらいの感じでおったから。

あおい・燎：それはちょっときつない(笑)？

GC で学べたことは？

- 燎** : 英語力はもちろん生きてて、自分の部署は海外の方とのやりとりが多いからすごく役立ってる。あと、英語とは関係ないけど、プレゼンテーションをすることに対して抵抗感がなくなったことが大きいかなあ。この前はアフリカから来たインターン生に英語でプレゼンしたよ。
- 舞美** : 確かに。英語はもちろんだけど、主体性が身についたのも、意見を述べるのが自然にできるのも、GCのおかげだと思う。他には、ゼミの学びだともなごを客観視して考える力がすごく身についた。
- あおい** : 研修期間中に思ったのは、同期が誰も手を挙げて発表しない中で自分は全く手を挙げるのに抵抗がなかったことかも。慣れてきたらみんなできるんやけど、初めはみんな恥ずかしそうにしてる中で、自分はできたから。

もう一度 GC 生に戻れるなら、どんな活動をしますか。

- 燎** : 海外インターンしとけば良かったかなあ。自分の留学先の国の知識がすごい深まっている分、いろんな国について知ってることの大切さが身に染みてわかる。
- 賢太郎** : 長期のインターンは確かにやるとけば良かった。僕は IT 会社に勤めてるから、プログラミング知識をもっと深めておけば良かったかなあ。
- 拡活** : 海外について知ることって旅行じゃダメなんですか？
- 燎** : 旅行とはやっぱり違うと思う。やっぱり現地の方との交流がないと、深い知識は身につけられないから。
- 拡活** : なるほど。
- あおい** : あと、パッと思いつくのは、エクセルをやっておけば良かった。授業で使う機会なかったから、今すごい苦戦してる。関数ってなに！？って感じやったし（笑）。
- 拡活** : あ、だから今「ICT 活用基礎」という授業があるのか！
- OBOG 一同** : やっぱり授業も時代に合わせて変わってきてるんやね（笑）。
- あおい** : これからの小学生とかプログラミングとかも覚えてる子らばかり入ってくるから、なおさら大変やんな。
- 航平** : 賢太郎は IT 企業勤務だけどその辺どう思ってる？
- 賢太郎** : 今、小学校とかに IT の導入支援とかもあるからなあ。

学生から社会人になってみて、一番大変だったことは？

- 燎** : とにかく最初は早起きが大変だった（笑）。大学も 4 年生のときは授業も少ないから起きる習慣がついてなくて。高校生に戻った感じかな（笑）。
- 航平** : そこなの（笑）。
- 賢太郎** : まあ、最近フレキシブルワークも結構浸透してるけどな。一番大きく変わったのは、

自分の行動が影響与える範囲が広いことかなー。自分の報告が遅れるだけで、サービスの開通が遅れたりしてしまうときもあるし。自分の会社だけじゃなくて、お客さんにも周りの会社にも迷惑がかかっちゃう。自己責任じゃ済まされへん。

あおい : 確かに、自分の周りを気にするようになった。ちゃんと組織の中で自分の役割をわきまえて行動することが求められる。

航平 : 周りに責任伴う版の高校みたいな（笑）

舞美 : でも、そこは会社によって求められるものも違ってて、うちは割と個々が強い感じやなあ。就活の時にしっかり自分にどっちが合うか考えた方がいいと思う。

拡活 : じゃあ、最後に僕から質問いいですか？現役生の悩みで将来やりたいことを見つけるのがすごく難しいんですけど、みなさんはどうやって今の業界を選びましたか？

賢太郎 : 無理に見つけようとしなくても、いま楽しいと思うことを続けたらええと思うで。そこから逆算してみると、意外とやりたいことが見つかったりするで。

燎 : それはめっちゃ同感。「今」やりたいことをやればいいと思う。これから人生長いし、とりあえず「今」を大事にしたらいんじゃない？

あおい : 私も同感。先を考えないって言うより、後から後悔しないためにやった方がいいと思う。それなら後で思い返してみても納得できるし。

舞美 : 私は本当にやりたいことがない後輩向けに。私自身もやりたいことを探せてよく言われてたけど、実際に見つけるのに苦労してん。だから、そんな人は実力主義の会社に入って見て、一度社会に出てから考えてもいいんじゃないかな。やりたいことが見つかったときのために、最初のうちに実力をつけとくって感じかな。

拡活 : なるほど！確かに自分の人生これから長いし、もっと視野を広く持って無理に見つけようとしなくてもいいかもしれないですね。めっちゃ勉強になりました。

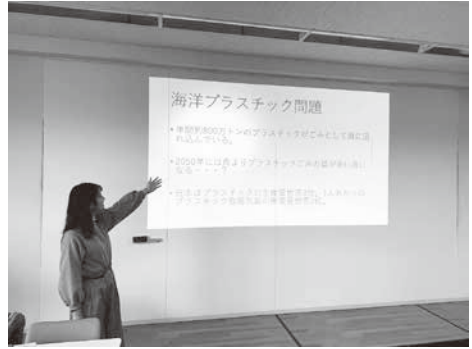
航平 : ごめんなさーい。みなさん盛り上がってるとこだけど、ここで時間来ちゃったから終了します。最後に写真撮ります！



Fountain Commons インタビュー

Q FC (Fountain Commons) ではどのような活動をするのですか？

A. 毎週水曜日の昼休みに集まって、その日のプレゼンターが気になった時事問題を選んでそれについてのプレゼンテーションをします。毎回ディスカッションクエストを設け、ディスカッションをした後、班ごとに発表し意見を共有します。その後は寺西先生からのフィードバック。寺西先生による就活セミナーや新聞の読み方講座、留学指導会に加えて、OBの方などのゲストスピーカーを招いてのイベントも定期的に行います。もちろんハロウィンパーティーやBBQなどの楽しいイベントもあります！



Q FCの活動を通して身につく力にはどのようなものがありますか？

A. まず時事問題に敏感になります。自分でプレゼンを作るので、リサーチ力・プレゼン力・資料づくり力が高まります。それとディスカッション力も。日頃考えない問題について考え、新しい発見をするきっかけにもなります。留学前にグループとして意見をまとめる力や日本に関する知識を蓄えることはアドバンテージにもなり、留学先で必ず役立ちます。自分の考えを発表する力は、ディスカッション場面が多い海外でも必要になるスキルなので。松坂大雅的には、留学中に日本について質問された時、あまりにも知らなさすぎると反省したこともありました。なので、時事問題についてアウトプットする機会が中々日常にはない中で、FCの活動はいい機会にもなります。普段時事問題ばかり話すと嫌がられるので(笑)。



Q 今年度創ったものはありますか？

A. OBなどFC以外の人を招くことで、規模の拡大を図りました。規則的な活動の中でいかに、刺激を作れるかを模索しています。他大学のプレゼンサークルとのコラボ企画も行いました。グローバルコミュニケーション学部という名前なのに、学部生しかいない閉鎖的なサークルだったので(笑)。あとはプレゼンアワードとかですね。

Q 会長が普段注意してることや反省点はありますか？

A. 自己判断が早いので、自分だけで決めてしまわないように、そしてみんなの意見を聞くように注意しています。参加人数が減る時もあるので、できるだけみんながやりたいことをできるようにもしています。時間にルーズになっていたところがあるので、そこをきっちりするように改善しました。就活も意識して(笑)。あとは1年生をどれだけボトムアップできるかですね。みんなが意見を言えるように、引き出せるように頑張っています。1年生が来年の留学中に僕みたいなしんどい思いをしないためにですね。

Q 正直ここがしんどい。FC 会長からのクレーム。

A. 目に見える成果がないので、みんなのモチベーションを保つのが難しいです。これを改善するための案を模索中です。反省点としては、学年と男女比が偏ってしまったことです。節目のところで改善策を見いだせなかったですね。もっとフェイストゥフェイスで勧誘するべきだったと思います。あとはFCに来る目標をそれぞれ持って欲しいとは思いますが。まあでも、部活など他にやることがある中で参加してくれてるのは、まじ感謝！



みんなの「GCE あるある」紹介掲示板!!

(グローバル・コミュニケーション学部英語コースの学生を中心に聴いてみました。)

留学から帰ってきてから、突然3年生になった気分になる(2年生の時に留学しているから)。

京田辺校地で、唯一の文系学部だからちょっと浮いているかもしれない(笑)。

GC 学部で何を勉強しているのか、知らない人たちに説明をするのが難しい。(学際的な勉強をして、国際問題など幅広く勉強をしています。)

他学部と比べると、教授との距離が近くアットホームな環境だと思う。

みんな長谷部先生が好き。

チョムスキーという言語学者に詳しくなる。」(ノーム・チョムスキーは有名な言語学者で、1年生の時には、必ず彼について授業で学びます。)

遊びやアルバイト、部活さらに就活に取り組みながらも勉強も欠かさず両立できている人が多い。サークルに入っている人は少ない気がする。

3年生になっても、週4回大学に通っている人が多い(単位取得のため)。

個性的な人が多く、教授陣を含め多様性がある。

長谷部陽一郎先生とは？

グローバルコミュニケーション学部が誇る認知言語学を専門にされている教員陣の一人です。いつも爽やかに言葉とテクノロジーの関わりについて教えてくださる先生です。

以下、長谷部先生の自己紹介の一部を抜粋しております。

「朝から晩まで『ことば』についてあれこれ考えながら日々を送っています。語学教員としては英語という言語の読み方や書き方を教えています。言語学の研究者としてはこれを理論的に分析するのが仕事です。また、プログラミング言語を使ってソフトウェア開発を行っています。」

興味深い自己紹介の続きは御手数ですが、是非 GC 学部の教員紹介のホームページでご確認ください。

Bonjour

議論が白熱すると、(第2言語にフランス語を履修している学生の中に) フランス語を話し出す人がいる。

新作の洋画が話題になり、話が盛り上がる。

GC 学部の自習室が一番居心地がよくて、落ち着く場所です！
(英語・中国語・日本語コース専用の自習室)

寺西先生のモノマネをしたがる人が多い。

留学後の変化

留学後も、留学していた国の訛りを意識してしまうし、無意識にアクセントが変わっている気がする。

留学後にキャラが変わっている友達がいる。

留学から帰ってきてから、英語のスピーキング力が向上したこともあり、学生のモチベーションの向上がすごい。

行動範囲が広めで、世界中が旅行先。

コーヒー片手に授業を受ける人がいる。(留学生活の影響かもしれません。)

日を追うごとに課題が増える。一度課題を溜めてしまうと、抜けられなくなる沼のような感覚に近い。

(課題は多いですが、GC 学生部生は励ましあいながら、日々課題に取り組んでいますよ。)

GC 学部の授業では、真面目に授業に出席して積極的に取り組んでいる人は、単位を落とさない。

寺西隆弘先生とは？

寺西先生も、認知言語学やメタファー専門のグローバルコミュニケーション学部が誇る教員陣の一人です。

特に英語コースの学生は、寺西先生は留学準備にとどまらず、人生に役立つアドバイスを下さる先生だと実感した学生も多いはず。

以下、寺西先生の学生へのメッセージの一部を抜粋しております。

「若いうち(大学生の頃)は周囲との比較から speed と distance ばかりが気になりますが、重要なのは direction です。方向選択のポイントは、情報収集・分析、先人のアドバイス、そして直感です。」

興味深い自己紹介の続きは御手数ですが、是非 GC 学部の教員紹介のホームページでご確認ください。

その他の GC 学部が誇る教授陣についても、ご関心がありましたら下記の URL から御覧いただければ幸いです。

<https://globalcommunications.doshisha.ac.jp/course/teacher/>



2019年度卒業研究テーマ

—英語コース—

Advanced Seminar 2 ① (担当 松木啓子)

- 藤田裕真 Instagenic Experience at Takeda Castle Ruins
深堀さやか Narrative on World Heritage Sites: A Case of Shirakawa-go
原之蘭陸人 *Shukubo*: “Touristic Experience” and “Religious Practice”
堀 結衣 *Oiran* Makeover in Gion, Kyoto: Is Authenticity absent or Present?
伊賀裕也 The Gap Between Representation and Actual Performance in *Ninja* Tourism
生駒宏武 Revitalization of Local Community Through Experience-based Tourism: A Case of Nakano *Udon* School
加藤 渚 Hosts’ Performance and Bird-Eye View at Daisen Kofun
河村優希 The Staging of *Reiwa* at Dazaifu
中村真季 The Transition of Asakusa: Has the Town been Changed by Tourists?
大辻伊津美 Limitation of Contents Tourism: *Pokemon Go* as Phenomenal Tourism in Tottori Sand Dune
谷口拓生 Sustainable Tourism in Naramachi
山田悠斗 Non-ordinary Feelings of Japanese Tourists in Wat Pho Temple
吉門大樹 Staging of *Shinsekai*: A Nostalgic Town in Osaka

Advanced Seminar 2 ② (担当 玉井史絵)

- 赤井大志 Beauty and the Scientist: The Representation of Technology in *Ex Machina*
ウルフ彩七まゆり Japanese Heroism in *Zato-Ichi*
藤本真太郎 Modern *Giri Ninjo* in Eiichiro Oda’s *One Piece*
河村綾音 Discrimination and Stereotype in *Zootopia*
小桑 望 2.5 Dimensional Stage: A New Type of Hybrid Entertainment
三木柚里佳 A Stranger in a Family: The Representation of Family Bond in Umino Chika’s *March Comes in Like a Lion*
中野かれん The Depiction of Charlie’s Depression in Stephen Chbosky’s *The Perks of Being a Wall Flower*
岡本智紗 The Representation of Weapons in American Society in *Ironman*
貞野昭良 The Representation of Machines as Animate Beings
白澤 瞭 The Representation of Life in *Final Fantasy VII*
末広希緒 The Representation of Horror in Sui Ishida’s *Tokyo Ghoul*
田中絵理 Kumamon: The Mysterious Cultural Phenomenon
田中光海 The Representation of *Monozukuri* in Jun Ikeido’s *Shitamachi Rocket*
巽 有理 The Representation of Fashion and Identity in *The Devil Wears PRADA*
土屋里奈 The Representation of Slaves and Human Rights in *12 Years a Slave*: A Comparison with the Novel, *Uncle Tom’s Cabin*
吉田 幹 Realization of a Prominent Future of Diversity in *Your Home Is My Business*

Advanced Seminar 2 ③ (担当 寺西隆弘)

- 紺屋水希 The Effect of Metaphor on The Audience: One Main Factor of The Success of The Beatles
 村井潤平 The Emotional Effect of Metaphor on The Audience: From The President Obama's Speeches
 岡田茂樹 A Contrastive Study of Adnominal Forms and Adjectives in Metaphorical Expressions: Color Terms in The Werewolf Game
 高柳光来 How to Use Metaphors in Comedy: Reactions of Hitoshi Matsumoto
 田中 凜 Metaphorical Thought Based on Experience: Self-expression in Yoko Ogawa's Fiction
 谷口成暉 A Contrastive Analysis between Japanese and English: Metaphorical Expressions Based on The Body Part "Stomach"
 柚木万奈 Metaphorical Perception of TIME and MOTION: From The Lyrics in 5 Top Japanese CD Sales

Advanced Seminar 2 ⑤ (担当 竹田宗継)

- 湯浅大輝 The Future of Journalism
 古川嵯映乃 To Achieve Women's Self-realization – Office Work and House Work –
 廣田賢興 Electric Vehicle's Market Prediction and its Future
 伊庭拓郎 The Effectiveness of Jokes to Build Solid Business Relationships. – Good Jokes Help Attract People in Business Situations –
 石黒莉奈 Japan's Wrapping Culture as a Form of Omotenashi Spirit Found at Department Stores
 石本果鈴 Marijuana Illegalization in Japan – The Truth Found in the Difference of Perceptions Between Japan and Canada –
 河原悠輝 Analysis of Similarities in Communications Skills Required for Freestyle Rapping and Business Negotiations
 川原悠里 Future Potential of Sharing Economies for Developing Human Connections in Japan's Aging Society
 小原歩南美 Analysis on Causes of Low Self-Esteem Among Japanese – Effective Approaches for Children to Enhance Self-Esteem –
 森本大貴 Analysis of Cultural Influence in Advertising – Comparison of Electric Appliance TVCM in the U.S. and Japan –
 内藤 凌 Industry Importance of Creating Synergy Through Strategic Alliances in the Automobile Industry – An Analysis of Successful and Unsuccessful Cases of Strategic Alliances –
 西川 楠 An Analysis of Why Japanese Advertisements Often Use Caucasian Models for Wedding Venue Advertisements
 岡部和也ジェームズ Communication Skills Required for Human Resources Acting as a Bridge in a Multinational Company – Case Study of a Japanese IT company Operating in Myanmar –
 岡田光里 The Influence of Instagram on Consumers' Purchase Behaviors – The Difference of Credibility between Instagram and Kuchikomi –
 堺 遼哉 Significance of Having Sense of "Home" for Enhancing Team Performance
 竹本名歩 Effects of the Internet on Narrowing one's View of the World

Advanced Seminar 2 ⑥ (担当 窪田光男)

- 市村郁也 “Covert Prestige” of Japanese Dialects in Kansai and Kanto Regions
今村日和 The Actual Function of Back-channeling Behaviors
井谷祥一郎 The System of Young People’s Languages
岩田佑佳 Katakana Trends in Japanese Hit Songs
丸山美和 An Analysis of the use of Disparagement Humor in American Comedies between 1970-1975 and 2000-2005
永嶋明日夏 A Study Comparing the Literacy Ability of Complicated Form Users and Simplified Form Users Among Chinese Speakers
小川瑞貴 Polite Expressions in Japanese and English
篠原阜佑 The Impact of Different Numbering System on Calculation Ability
高原唯任 The Tendency of Using Loan-words by Japanese People
和田尚美 A Comparative Study of Japanese Idioms

Advanced Seminar 2 ⑦ (担当 中田賀之)

- 遠藤由基 The Effect of Beginners on Motivational Climate: A Qualitative investigation of College Gymnastics Club Activity
日比莊一郎 Relation between Teacher’s Motivation and Life-stage
三田会斗 Enhancing New Graduates’ Work Engagement
北川凌介 Grice’s Cooperative Principle: A Study of Japanese University Students
松田穂杏 Work Motivation and External Rewards: A Case Study of Japanese University Students
森麻菜美 Will Children’s Attitude in Class be changed by Robot Dog?
小野 渚 Relationship between Need for Approval and Work Motivation: A Case Study of Two Japanese Employees
大島悠暉 Measuring Motivations for Risky Volunteering
尾崎 聡 Relationship between Interest in Fashion and Self-esteem among Men
高田翔平 Psychology of Idol Fans: Motivation and Feeling for Rooting for Idol Groups

Advanced Seminar 2 ⑧ (担当 南井正廣)

- 藤原康太郎 Industrial Revolutions and Social Changes: A Comparative Study between the First Industrial Revolution and Industry4.0
- 平越真由 Is Your Cat Domesticated?: Lessons from the 9,500-Year-Old Relationship between Humans and Cats
- 石田三奈 The Future of Digital Books: From the Viewpoint of the History of Destruction of Books
- 石田大河 Effects of Plastics on Humans and Ocean Life
- 板垣汐音 The Influences Hot Springs on Eastern and Western Cultures
- 川添咲季 Future Possibilities of Japanese Idol Groups Performing Worldwide: The Case of Johnny's
- 京口優香 The Japanese Steel Industry: Current Problems and Future Potential
- 松尾菜央 An Inquiry into Women's Work and the Meaning of Wearing High-Heeled Shoes
- 和布浦里彩 Japanese Beer Today: The Shift in the Culture of *Toriaezu Biiru*
- 三井音佳 Past and Future of Fragrance: With Special Interest in Perfumes in Films
- 永井里奈 History of Propaganda and We Who Live in the Information Society
- 小野未雅 The Culture of Sweets and Communication in Japan
- 坪嶋孝佑 A Study of Shifts in Expressive Methods of the Japanese Manga
- 若森宇貴 A Study on Prosperity and Decline of the Spanish Empire: From the Perspectives of Silver Trades and Catholicism
- 山本浩生 The Future Prospect on People's Sense of Time: Through the History of Mechanical Clocks

－中国語コース－

専門演習3 ① (担当 内田尚孝)

- 青木三沙 日本人の対中イメージに関する研究－共通教科書と歴史教科書を中心に－
濱 拓海 日中のフィンテックに関する研究－中国から日本は何を学べるか－
濱田麻梨乃 訪中日本人に関する研究－メディア報道と対中イメージを中心に－
濱地麻佑 中国の社会保障制度に関する研究－戸籍制度問題を中心に－
早見優哉 日本における歴史認識問題に関する研究－「南京事件」をめぐる日本国内の動向とドイツの「過去の克服」を比較して－
林 大雅 中国経済の現状と金融リスクに関する研究－日本のバブル経済およびリーマンショックとの比較を中心に－
市橋侑里 中国近海における海洋権益問題の研究－東シナ海・南シナ海をめぐる関係諸国間関係を中心に－
市川大悟 自動車産業大転換期の中国自動車市場－各国メーカーの取り組みを中心に－
今井愛華 中国の対アフリカ援助外交に関する研究－アンゴラ・ガーナ・ジブチを中心に－
川本里奈 中国の少子高齢化と政府の高齢者政策－中国進出した日本の介護事業者とアジア健康構想下の取り組みを踏まえて－
小西真愛 日系企業の対中国進出に関する研究－日系企業の現地法人化を中心に－
松久桃子 中国の都市化政策に関する研究－貴州省貴安新区の考察を中心に－
中沢 望 中国自動車市場における新動向に関する研究－EVシフトがもたらす影響を中心に－
田栗匠一郎 建国大学における「民族協和」の研究－戦前日本の多民族教育に関する考察を中心に－
高橋悟郎 日本における国家追悼の在り方に関する研究－靖国神社問題を中心に－

専門演習3 ② (担当 郭雲輝)

- 迎 美里 日中の化粧品・美容関連の表現について
佐々木亜紀 海峽兩岸における語彙の比較－交通機関を中心に－
青木 優 日中パンテーンテレビコマーシャルにおける広告表現の分析
北條恭兵 日本語と中国語の褒め言葉について
久保花織 色彩語彙に関する日中比較
水本和希 “对不起”、“不好意思”と「ごめんなさい」、「すみません」の対照研究
那須博昭 日中サッカー記事比較
西久保菜月 日常あいさつ表現の日中比較
和田きらら 日中間におけるカバーソング比較
山田麻琴 日本における中国語表記
山崎 栞 機械翻訳による日文中訳の誤訳について
吉田悠花 日中の数字を用いた表現方法に関する考察
－両国の数字に見る文化的要素をふまえて－

専門演習3 ③ (担当 中西裕樹)

(全員で一冊の本を翻訳)

翻訳：周振鶴、游汝傑著『方言與中國文化』上海人民出版社、2015年

角野美月、広瀬智咲、玉置 萌、藤田明日香、東茉莉香、小林純也、小嶋千紗、大石真央、大澤美咲、高木みずほ、玉井里佳、時安 誠

専門演習3 ④ (担当 唐顯芸)

堀日菜子 中国の情報格差について

岩城奈津美 日本人男性と台湾人男性における育児休業取得の比較

三木恵里香 中国における国民の運動・スポーツ参加についてー北京オリンピック・パラリンピック開催前後の運動・スポーツ促進政策に着目してー

浦井悠伊 中国式家庭教育から生じた社会問題

—日本語コース—

専門演習2 ① (担当 脇田里子)

安 彩娟 (アン チェヨン)

韓国ドラマの日本語字幕の特徴

李 眞善 (イ チンソン)

日韓の自己開示に関する比較研究—ウチ・ソト・ヨソとウリ・ナム—

李 娜 (リ ナ)

人間関係からみる日中の断り表現

宋 宇静 (ソウ ウセイ)

日中の女子大学生の結婚観に関する意識比較

任 天楽 (ニン テンラク)

日本語を語源とする中国語の新語に関する研究

専門演習2 ② (担当 須藤潤)

高 逸琪 (コウ イツキ)

特定した場面におけるあいさつ表現での韻律的特徴と与える印象—中国人学習者と日本語母語話者の比較—

GILES RHYS JAMES (ジャヤルズ リース ジェームズ)

アクションマンガにみるオノマトペの日英翻訳—「Foreignization」 & 「Domestication」とオノマトペの関係—

龔 燕 (キョウ エン)

日本語学習者が日本語母語話者と雑談するときのあいづちの繰り返しについての分析

張 文博 (チョウ ブンハク)

日中初対面接触場面における自発的自己開示と相手からの質問による自己開示

趙 逸倫 (チョウ イツリン)

日中両国の流行語の対照研究と分析—2008-2017年の受賞語を中心に—

専門演習2 ③ (担当 鈴木伸子)

陳 秀英 (チン シュウエイ)

現代の茶道と女性—老年層と若年層の人生における茶道を学ぶ(継続する)意味—

孫 華 (ソン カ)

中国山東省の日本語専門学校における日本語学習者の進路について—進路選択時の構造と現状に着目して—

張 海辰 (チョウ カイシン)

ボランティアに参加する学生の自己成長について—或る大学のボランティアサークルの学生を対象に—

同志社大学グローバル・コミュニケーション学会講演会・ ワークショップ開催記録

日 時：2019年6月24 - 25日 14:55～18:10
会 場：同志社大学京田辺キャンパス情報メディア館 JM303 教室
題 目：「ワークショップ2019：字幕制作と映像翻訳」
講演者：設楽光明氏（ホワイトライン ディレクター）

日 時：2019年11月19日 15:00～16:30
会 場：同志社大学京田辺キャンパス夢告館 MK102 教室
題 目：「美しくあれ—アルチザンが創る華麗なる世界・宝塚—」
講演者：原田諒氏（宝塚歌劇団演出家）

あとがき

「型破り」という言葉があります。
日常においては独特なスタイルや変わった発想に対して
使われる事が多いように思われます。

編集長玖村からごあいさつがありましたように、まさに今年のテーマは「創す（くずす）」の下に委員一同 *Cosmos* の編集に邁進して参りました。今年は今和元年という時代の節目もあって委員発足の時点より皆の中で「新時代にふさわしいものにしたい」、「これまでとは全く違った *Cosmos* にしたい」という同じ志がありました。ここから既存の形式、学部機関誌としてのイメージ、そして常識を「崩し」、自分たちの手で新たな *Cosmos* を「創る」という願いと理念を打ち出し、我々の活動は始動しました。

冊子の中に見られる数々の「初挑戦」にはもちろん多大な困難もついて回りました。

「0→1（ゼロイチ）」というフレーズも昨今よく耳にしますが、何か新しいことを0から始めることはそれなりの大変さがあります。先人たちが築きあげたものを参照せず未開の地をいくわけですから通常より増して犠牲も増えます。しかし、これほどにプラスアルファの困難が上乘せられるからこそマジョリティーという名の大海から一閃の光が浮き出し人々の関心を惹きつけるのだと思います。

とはいえ、このように意気込んでプロジェクトが始動したものの、名ばかりが先行してなかなか円滑に機関誌作成が進みませんでした。変革に成功の保証はないですから、変革史における成功の影には幾多もの失敗に終わった犠牲があります。自分たちも同様、変革を目指した者の運命として八百万の犠牲の山の中に埋もれる一塵と化するのだろうかと思っていました。

そんな時、手をさしのべてくださったのがこれまでの *Cosmos* 史を築き上げた先輩編集委員 OBOG の皆さまでした。彼ら自身編集委員時代の経験を松明（たいまつ）に、行き詰まる我々を導いてくださいました。その時に我々は、「本当の型破りとはむやみに奇をてらうのではなく、一度基本や常識という「型」にどっぷりと浸かってはじめてそれらを「破る」もの」だと気づいたのでした。

最後になりますが、個々の *Cosmos* と相対的なものとして「名前をつけて保存」するのではなく、これまでのノウハウを踏襲した「上書き保存」としての新たな *Cosmos* を「創す（くずす）」ことができましたことに今一度、編集委員一同を代表しまして、関係者の皆さまにお礼申し上げます。

Cosmos 第9号編集委員 江崎 航平

2019年度 *Cosmos* 編集委員会

英語コース	5年生	江崎 航平
	4年生	竹本 名歩、堺 遼哉
	3年生	玖村 拓活、鋤柄 裕大、松本 ひかる、姫野 明希子、川原 大樹、宮藤 美穂
	1年生	山口 真穂
中国語コース	2年生	白猪 萌奈、湯ノ口 涼香、中西 紗唯
	1年生	安藤 紫甫、細川 水貴、新原 あまね
日本語コース	3年生	林 和燮
	1年生	金 娜馨、李 崢子、宋 抒娟、南 抒演

グローバル・コミュニケーション学会

運営編集委員会・役員会

山本 妙、南井 正廣、中村 艶子、Peter Neff、郭 雲輝、脇田 里子、伊勢 晃、寺西 隆弘

Cosmos 第9号

2020年3月15日発行

発行 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会
〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部内
Tel (0774) 65-7491 Fax (0774) 65-7069

編集 2019年度 *Cosmos* 編集委員会
グローバル・コミュニケーション学会 運営編集委員会

印刷 株式会社あおぞら印刷
〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15

